

東北学院大学教職員修養会 キリスト者教員研修会 報告書

第 12 号

卷頭言

2010 年度 第 56 回教職員修養会報告	3
2010 年度 第 15 回キリスト者教員研修会報告	47
2010 年度 第 36 回サマー・カレッジ	55
2010 年度 宗教活動報告	69

東北学院大学

宗教部長 佐々木哲夫

学校礼拝に代表されるキリスト教学校の活動は、教職員の参与によって遂行されている。また、当該学校の歴史や伝統の力が潜在し、奉職する者にキリスト教活動への理解や協力を暗黙うちに要請する。時として、このような日常的平衡が危機に晒されることがある。例えば、先般の東日本大震災がそれである。地震のすさまじさについては、『東北学院時報』三・四月合併号や『キリスト教学校教育』五月号において報告されている。損壊した校舎は建設業者によって復興される。他方、建学の理念であるキリスト教は、この災厄をどう理解するかが問われた。まさに、ヨブ記のテーマである「不条理」が問われた。

過酷な災厄に見舞われたヨブの困惑は深刻だった。彼は、友人たちと同じく因果応報に從う理解を有していたのであるが、災厄の起因である罪を自らのうちに発見することが出来なかったのである。とするならば、神はヨブに不当な災厄を下したことになる。究極の不条理にヨブは直面したのである。

ところで、アウシュビッツを生き延びたユダヤ人精神医学者ビクトール・フランクルの著書『夜と霧』や『それでも人生にイエスと言う』に、人は誰しも不条理を抱えて生きていること、また、人生から何が期待できるかではなく、人生が我々に何を期待しているかが大切であることが記されている。すなわち、神と共に生きる人生こそ不条理を克服する道であることが記されている。それは、ヨブの独白「あなたのことを、耳にしてはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます。それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し自分を退け、悔い改めます」(四二・五～六)と共鳴する人生観である。

東北学院は、震災を経た後もこれまでの歴史と伝統に留まり、神と共に歩む教育機関である事を継続している。本『報告書』がそのような東北学院大学の歩みに貢献することを願っている。

2010 年度

第 56 回 教職員修養会報告

第 56 回東北学院大学教職員修養会プログラム

- 期 日 2010年8月31日(火)～9月1日(水) 1泊2日
会 場 宮城蔵王ロイヤルホテル
〒989-0916 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字鬼石原1-1
TEL 0224-34-3600
- 主 題 『聖書に聴く』
講演題 『信仰と仕事』
講 師 北城恪太郎(日本アイ・ビー・エム株式会社 最高顧問、学校法人国際基督教大学
理事長、公益社団法人経済同友会終身幹事)
〔略 歴〕1944(昭和19)年生まれ。慶應義塾大学工学部卒業、カリフォル
ニア大学大学院修士課程修了。
〔主な兼職〕国家公務員倫理審査会委員、学校法人国際基督教大学理
事長、ngi group 株式会社取締役

8月31日(火)

- 9:00 土樋キャンパス 正門前バス出発
10:00 受付
10:30 開会礼拝
大学長挨拶
講師紹介
11:00 講師講演
12:25 オリエンテーション
12:30 昼食
13:30 各部屋チェックイン
14:00 グループ懇談『講師講演をめぐって』
15:00 休憩
15:30 全体懇談『東北学院創立者 押川正義の墓標を尋ねて』
鶴本勝夫氏(本学名誉教授)
18:00 夕食

9月1日(水)

- 7:00 朝食
チェックアウト
9:00 朝拝
10:00 全体協議・報告会
12:00 閉会礼拝
12:30 昼食
13:30 解散(ホテルをバス出発)
14:30 土樋キャンパス正門バス到着

開会礼拝奨励

佐々木哲夫 宗教部長

「私の道の光」

東北学院大学宗教部長 佐々木哲夫

聖書：旧約聖書 詩編 第 119 章 105 節

あなたの御言葉は、わたしの道の光

わたしの歩みを照らす灯

東北学院は、本年度、124年目を迎えています。私立学校ですから、創立の理念や目的を示す「建学の精神」は、重要です。それは、過去の理念ということではなく、現在、また、将来の歩みを方向づける羅針盤のごとき存在です。本学の規程集の水色のページに、寄付行為の前文として「建学の精神」が記載されておりますので、引用させていただきます。

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の精神に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育とした。その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の進展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

冒頭に東北学院の三校祖として、三人の名前が記されています。押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーの三人です。数年前、「建学の精神」を英訳する機会が与えられたのですが、校祖という言葉が school ancestors と訳したものか founders と訳したものか、しばし考えさせられました。なぜなら、東北学院が仙台神学校として創立された 1886 年（明治 19 年）の時の創立者は、押川先生とホーイ先生の二人だけだったからです。三人目のシュネーダー先生が仙台に着任したのは二年後の 1888 年のことです。つまり、創立後の赴任ですから、正確に言うならば、founding には参加していないということになります。ですから、三人を表現するのであれば、founders ではなく school ancestors 「校祖」のほうが正確だとい

うこととなります。しかし、考えさせられた理由はもう一つありました。これは、三人に共通して言えることですが、彼らは、自分たちではなく、イエス・キリストを真の創立者として学校を作ったということです。換言するならば、聖書の言葉を土台として学校を作ったということです。この点については、元理事長の田口誠一先生から幾度となくご指摘をいただき、お話をいただいたことでした。このような背景もあって、本学では、三つのキャンパスの図書館など、目につくところを選んで、三校祖の肖像画ではなく、聖書の言葉が掲げられています。

さて、「聖書の言葉」は、教育だけでなく、国や人生の基盤ともなります。聖書箇所詩編119篇105節を参照したいと思います。

あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯。

これは有名な箇所です。神の言葉は、光であり灯である、と同義並行法によって繰り返し表現されています。一行目の「光」は、燭台に灯る火 (Lamp) を意味しています。イスラエルの神殿の七枝の燭台(メノラー)の火や家庭の燭台に灯る火を意味していました。燭台の灯は、神が自分たちと共にいることの象徴であること、また、神が自分たちの歩むべき道を導いてくれる方であることを確信させてくれるものでした。二行目の「灯」は、光 (light) を意味しています。日中の光、喜びで輝く顔、目の輝きなどの表現においても使われる光です。聖書には「命を与えられて生きるものは光を見るが (ヨブ 33:28)、死んだ者はもはや光を見ることができない」(詩 49:20、Job 3:16) との記述もあります。すなわち、光 (light) と命 (life) が関連付けられています。聖書の言葉が、私たちを命へと導いてくれる光だということです。

さて、光と命という言葉を書きますと、東北学院の3L精神 (Life, Light and Love) を連想しますが、ここでは、大学の卒業礼拝で開かれるマタイ福音書5章の言葉「あなたがたは世の光である」を連想していただきたいと思います。本学の教育を受けた学生たちに、卒業礼拝において、毎年、「あなた方は、光である」というイエス・キリストの言葉を説教箇所として選んでいます。東北学院で教育を受けた卒業生は、もはや、光り輝く存在、世を照らす存在となっているのです。イエス・キリストは、大胆にも、「聖書の言葉は、その人の中だけでなく世をも照らす」と言明しているのです。lamp の光であるにせよ、light の光であるにせよ、東北学院大学の卒業生が世の光であるというならば、その光は燭台によって育まれたものであります。すなわち、東北学院大学という燭台によって育まれた光であります。124年前に創立された燭台、すなわち、聖書の言葉を土台とした学舎は、今日においてもか

ならずそうなのです。今年もまた『聖書に聴く』の主題をもって東北学院大学教職員修養会
を行いたいと思います。

主題講演

「信仰と仕事」

北城 恪太郎 先生

講師略歴

きた しろ かくたろう
北 城 恪太郎 先生

(日本アイ・ビーエム株式会社 最高顧問、社団法人 経済同友会 終身幹事)

生年月日

1944年4月21日

学 歴

1967年 3月 慶應義塾大学工学部卒業

1972年 6月 カリフォルニア大学大学院 (バークレー校) 修士課程修了

IBM 社歴

1967年 4月 日本アイ・ビー・エム株式会社入社

1986年 3月 同 社 取締役

1988年 3月 同 社 常務取締役

1989年 3月 同 社 専務取締役

1991年 3月 同 社 取締役副社長

1993年 1月 同 社 代表取締役社長

1999年 12月 IBM アジア・パシフィック プレジデント兼

日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役会長

2003年 3月 日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役会長

2007年 5月 同 社 最高顧問

経済同友会歴

1987年 7月 社団法人経済同友会入会

1994年 4月 同 幹事

2000年 4月 同 副代表幹事

2003年 4月 同 代表幹事

2007年 4月 同 終身幹事

主な兼職

国家公務員倫理審査会 委員

学校法人国際基督教大学 理事長

ngi group 株式会社 取締役

人となり

尊敬する人物：福沢諭吉

好きな言葉：自由闊達

趣 味：園 芸

「信仰と仕事」

北城恪太郎

日本アイ・ビーエム株式会社 最高顧問
社団法人 経済同友会 終身幹事)

私は中学を卒業する際に担任の先生から、英語の成績が良くないと言われました。その先生の言葉に発奮し、高校に入り、英語を必死に勉強しました。そんな折、英語で礼拝を行っている教会があることを知り、勉強のために通い始めました。今から思うと、それも神様が備えてくださった道であったと思います。20歳になるまで礼拝に出席しましたが、その後は教会へ行かなくなりました。

しかし、1967年に大学を卒業し、社会人としての人生をどのように生きるべきかを考えていた時、友人の薦めがあり、再び教会へ行くようになりました。何か変わらない信念、価値観を持ちたいと思ったのです。教会で礼拝を守り、説教を聴き続けるうちに、自分を背後から見守ってくださる神様の存在を感じるようになりました。そしてこの方に従って社会人生活を送ろうと決心し、1967年のクリスマス礼拝において洗礼を受け、クリスチャンとなりました。

社会人となり、いろいろなことを経験しました。

- －第一線のシステムズ・エンジニアとして、コンピューターのソフトウェアを構築する仕事に従事しましたが、仕事は面白く、とても遣り甲斐があったものの、昇進が遅かったこと。
- －36歳で管理職となり、大手都市銀行の第三次オンラインのメーカー選定という厳しい競争を経験したこと。
- －会社の業績が悪化する中、48歳で社長に就任し、事業構造の転換に積極的に取り組んだこともあり、初年度は赤字決算となったこと。
- －58歳で経済同友会の代表幹事に選ばれ、自らの信念に基づいて発言したことにより批判を受けたこと。

いろいろなことがありましたが、後になって振り返ってみると、人生のいろいろな局面で、聖書の御言葉に導かれてきたのだと思います。神様に従い、世のため、人のために生きてきた私の、信仰と仕事についてお話しいたします。以上

「信仰と仕事」

日本アイ・ビーエム株式会社 最高顧問 北城恪太郎

ただいま、ご紹介いただいた北城でございます。伝統のある東北学院大学の教職員の修養会で、お話をさせていただく機会をいただき、大変光栄です。

1時間程お話をさせていただき、その後、ご質問を受けたいと思います。質問を考えながら聞いていただければ幸いです。この様に沢山の方が出席する国際会議では、2つの不可能なことがあると言われていました。1つは、日本人に発言してもらうことです。そして、もう一つは、インド人に発言を止めてもらうことだと言われていました。是非、後ほどご質問していただきたいと思います。

私は現在、プロテスタントの日本ナザレン教団の東京・渋谷にある目黒教会の会員です。洗礼を受けたのは、社会人となった1967年のクリスマスです。従って、私の43年間の社会人としての歩みは、クリスチャンとしての歩みと重なります。この間に、社員が2万5千人の日本アイ・ビー・エムの社長、社員が10万人のIBMグループのアジアの責任者、そして、経済三団体の一つである経済同友会の代表幹事を務めましたが、振り返ってみると、日々、心に平安を持って、何の不満もなく仕事に取り組むことができたのは、神様の導きによる恵であったと感謝しています。

今日は、この43年間、信仰を持って歩んできた中で、どのような導きがあったかについて、お話をさせていただきます。

話に先立って、生活をする中でいつも心に浮かぶ御言葉を一つ読ませていただきます。

それは、ローマの信徒への手紙、8章28節にある、「神を愛する者たち、つまり御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように、共に働くということをわたしたちは知っています」という御言葉です。これは、どんな時にも、神様がわれわれに備えて下さった道があって、それに従って歩めば、すべてが良い方向に導かれる、心に平安を持って、という意味だと思っています。

さて、クリスチャンになったきっかけですが、それは、私の中学校時代にさかのぼることになります。大変尊敬していた中学校の担任の先生から、卒業の時に私の成績表を見ながら、「君は他の成績は良いが、英語の成績はあまり良くないね」と言われ、その言葉に発奮して、高校では必死に英語の勉強を始めました。学校の授業とクラブ活動の時間以外は、一日中英語の勉強をしていました。テレビ、ラジオの英会話の放送を聞く、英語のテープで英会話を勉強する、英会話学校へ行く、英語の映画を繰り返し見るなど、あらゆる手段を使って、英語の勉強をしていました。そんな時に英語で日曜学校をおこなっている教会があることを知り、英語の勉強のために、毎週日曜日には教会学校に行くようになりました。毎週、聖書の

御言葉を聞く中で、2000年続いてきたキリスト教の力を感じましたが、垣根の外から見ていたので、信仰を持つにはいたりませんでした。これが初めて教会に行くきっかけになりました。その教会では、教会学校のクラスは20歳までということで、20歳になった時に教会に行くのは止めてしまいました。しかし、3年間教会学校に通ったことで、多くの御言葉が心の中に残りました。

そして、1967年に大学を卒業し、日本アイ・ビー・エムでシステムズ・エンジニアとしての歩みを始めた時に、これからの社会人としての人生をどのように生きるべきか悩みました。自分がこれが正しいと思って仕事を進めても、思ったような結果が出ない。自分は何のために生きているのか、あるいは、何が正しいことなのかといったような疑問を持っていた時に、友人の勧めがあって、東京・渋谷にある目黒ナザレン教会に行くようになりました。毎週、日曜日の礼拝で、御言葉に接する中で、そして、ビリー・グラハムのクルセートに参加する中で、自分を背後から見守って下さっている方の存在を感じ、これからの人生を復活のイエス・キリストに従って歩みたいと決心し、1967年のクリスマスの日に洗礼を受けてクリスチャンになりました。以前使っていた口語訳の聖書の旧約聖書の中にある伝道の書、12章1節（新共同訳の聖書ではコヘレトの言葉）にある、「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」という御言葉が心に残っています。

第一線のシステムズ・エンジニアとしての仕事は充実しており、忙しいものの面白く働いていましたが、昇進は同期入社社員の中でも最も遅い方でした。それでも、36歳の時に初めて管理者に登用されました。担当した仕事は、大手都市銀行の第三次オンライン・システムを提案する営業チームの責任者を務めるというものでした。

初めての管理職、そして、初めての営業チームの責任者ということで戸惑いもありましたが、それからの2年間は、昼夜を分かたぬ大変厳しい競争の中で仕事を進めました。

時には、我々の提案が、お客様に理解していただけず、競争に負けてしまうのではないかということもありました。それでも、私のモットーである「明るく、楽しく、前向きに」で仕事に取り組みました。どんなに厳しい時にも最後まであきらめず、思い悩まずに仕事に取り組むことができたのは、全て神様が私に備えて下さった道があるという御言葉のおかげです。

セレンディピティという言葉があります。セレンディップの3人の王子という童話から出た言葉で、ふとした偶然からひらめきを得て、幸運を掴み取ることのできる能力を表していますが、努力したことによって、幸運を掴む力が得られたのだと思います。

この2年間の営業活動の中で、会社の経営方針を変えなければならないと思うことがあり、10回程社長に直訴したことがありました。役員反対がある中で、社長に直接訴えて、経営方針の転換が出来た背景には、私は自分に与えられた使命を一所懸命に歩んでいる、結果が良くても悪くても、それが自分に与えられた道であるという確信があり、常に心に平安をもっていたことがあったと思います。

ペトロの手紙1、4章10節～11節の御言葉「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵の善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい」に励まされました。幸い、お客様の第三次オンライン・システムの開発メーカーとして日本アイ・ビー・エムが選ばれ、その後は昇進の機会に恵まれ、48歳で日本アイ・ビー・エムの社長に就任しました。

社長に就任した1993年は、日本アイ・ピー・エムの業績が大変厳しい年でした。前任の社長の椎名から、「良い時期に社長になったと思ってくれ。業績が落ちてでも前任の責任だと言える。業績が向上すれば、良くやったと言われるのだから」との話がありました。それだけ経営が厳しい中での社長交替でした。当時取締役が30数人おりましたが、私が最年少でした。取締役会では、毎回敬語で話をしていました。いくつかの事業から撤退したこともあり、その年は赤字決算となりました。社員も会社の将来に不安を感じていましたが、事業構造の大きな転換を行い、これまでコンピュータの販売を中心として経営してきた会社を、ソフトウェアとサービスの提供する会社に変えることにより、会社を成長軌道に乗せることができました。その後、日本を含めて、IBMのアジア18ヶ国を統括する組織の責任者を務めることになりました。

その後、2003年4月には、経済同友会の代表幹事に就任することになるのですが、そこにも神様の導きがありました。

「経済同友会」というのは、どのようなことをする会か知らない人もいると思います。日本には、大きな経済団体が3つあります。1つは「日本経済団体連合会（経団連）」で、主として大企業ならびに業界団体の集まりです。会長は住友化学の米倉会長です。もう1つは、「日本商工会議所」で、主として中堅企業、小企業の意見を代表する団体です。

そしてもう1つが、私の所属している「経済同友会」です。ここには、経営者が個人の資格で参加しています。経済同友会は全国、各地にありますが、東京の経済同友会には1,300人の経営者が参加しています。そして、自分の会社の利益のためではなく、経営者個人の立場で、企業経営や日本社会のあり方、政治などの問題について発言しています。

私の前任の代表幹事は、富士ゼロックスの元会長の小林陽太郎様でした。私はその下で、副代表幹事という仕事をしていました。他に副代表幹事は10人程いて、かつて日銀総裁を務められた福井様や、郵政公社総裁を務められた生田様なども副代表幹事でした。

2002年11月に、小林陽太郎前代表幹事から「ちょっと話したい」ということで、小林様の会社に伺いました。すると、小林様は、「次の代表幹事の候補者として、あなたを推薦したい」と言われたのです。私は驚いて、「私にはその任を担うほどの経験もないし、見識もありません。他にも立派な副代表幹事の方がいらっしゃいます」と言ってお断りしました。しかし、小林様は、「立派な方は沢山いるが、皆年齢が自分と同じ世代だ。経済界も10歳ぐらい若返りをしたい」と言われて、私を推されるのです。

何度かお断りしたのですが、「まあ、そう言わずに、ともかくもう少し考えて欲しい」と言われていました。そうして、12月になったころ、家内と日曜日の礼拝に出席した時のことです。その日の説教は、受胎告知の話でした。「マリアは天使から、キリストを宿していることを告げられ、どうしてそのようなことがありえましょうか」と答えるのです。しかし、「神にできないことは何一つない」と諭される、そんな話が、牧師先生からありました。そして、「あなたがやるのではない、すべてをなすのは神だ。神様の言うとおりにすればいい。その結果というのは、神様がすべて備えられているのだ」という話を牧師先生がされたのです。説教が終わってから、家内と顔を見合わせました。「全くの力も見識もない者だけれども、しかし、与えられたものは受けなさい。そして、その結果はすべて神様が備えられているのだ」経済同友会の代表幹事の務めも、神様から与えられた使命だと信じ、お引き受けすることにしました。

この大役を引き受けて、経験もないので、大変苦労しましたが、「どんな時にも神様が我々に備えて下さった道があって、それに従って歩む時に、すべてが良い方向に導かれる」という御言葉に従って、経済同友会の代表幹事の責務を一期2年間務めました。

代表幹事の一期目の任期が終わる頃、多少健康にも不安があったので、他の方に代表幹事を代わってもらおうとしていた2004年末に、牧師先生の説教の中で、次のような話がありました。聖書に出てくるモーセの後継者ヨシュアにまつわる話です。老人になったヨシュアは、神様から「あなたは年を重ねたが、占領すべき土地はたくさん残っている」と言われたのです。この御言葉を聞いて、神様が私に「やり残したことがたくさんある。頑張って務めなさい」と示されたのだと思いました。こうして、代表幹事の二期目を務めることになりました。そして、2007年の4月に日本アイ・ビー・エムの会長と、経済同友会の代表幹事を退任いたしました。

このように神様は、人生の節目でいつも歩むべき道を示して下さっています。御計画に従って歩めば、万事が益となると信じて、仕事に取り組んでいますから、心にはいつも平安がありました。振り返ってみて、我が人生に悔いなしと言えます。

最近あった嬉しい話は、社員の一人が、私の仕事への取組みを見て、自分もクリスチャンになりたいと思って教会に行き、洗礼を受けたということです。会社の中で普段、信仰の話をしているわけではありませんが、社員は私がクリスチャンであることを知っています。社員の中から信仰の道を歩む者が出てくれたということは、クリスチャンとして、ビジネスの世界で生きて来た者として大変嬉しいことです。

なお、今年の6月には、国際基督教大学の理事長に就任し、若い人の育成に努めています。現在社会も大きく変化しており、大学も社会の要請に応じて変わらなければならない点があると思います、教職員の皆さんと共に努力しています。

残された人生を神様に従い、地の塩、世の光として生きて行きたいと考えています。

全体懇談

『東北学院創立者 押川方義の墓標を訪ねて』

鶴本勝夫（本学名誉教授）

レ ジ ム

「東北学院創立者 押川方義の墓標を訪ねて」

本学名誉教授 鶴本勝夫

- (1) 仙台北山キリスト教共同墓地（宮城県仙台市青葉区）
- (2) 基督心宗不二山荘墓地（山梨県富士吉田市）
- (3) 押川家墓地（東京都雑司ヶ谷墓地）
- (4) 今西春子方関係墓地（？）

「東北学院創立者 押川方義の墓標を訪ねて」

本学名誉教授 鶴本勝夫

ただいまご紹介にあずかりました鶴本でございます。なぜ今日ここに立っているのかなとちょっと不思議に思っているんですけども、あんまり修養会に出席しなかったので呼び出されたのかなと思います。実は家で電話工事をしておりましたら、ちょうど電気屋さんが「電気工事終わりました」と言った途端、佐々木哲夫先生から電話がかかってきて、家でやっていることがみな見えているのかなと思いました。そのときに「実はちょっと話してもらえないかな」という話があったものでちょっと断りきれずおまして、今日はこれをお引き受けしたということでございます。最初に簡単な自己紹介をしたいと思います。私は昭和17年の7月生まれです。仙台の青葉区の八幡町界隈で生まれました。9人兄弟の9番目で、ちょうど私の母親はもう40歳で、高齢出産だったのではないのかなと思います。私がどうして押川先生のことを調べるようになったのかといういきさつなんでしょうけれども、実は私の育った環境のこともあり、まあそのあたりをちょっとお話したいと思います。本題に入る前に10分くらいその辺の話をさせていただいて、それから本題に入りたいと思います。できるだけ早く終わってくれないかなと思っている方が多いと思いますので、できるだけ時間は守るようにしたいと思っています。約1時間ですか、私が普通話をするといつは話が長いからというんで嫌われているんですよ。ですけどこれだけ今お見えになっておられるんで、みんなのご希望に叶うようにできるだけ早くやめるようにしたいと思います。ちょっとだけお付き合いいただきたいと思っております。本当はパワーポイントでやればいいんですけどもそれが少しいところもありまして、少し見苦しい点があるかもしれませんが、でもOHPでさせていただきます。

私は、工学部の方を今年の3月に定年退職になりまして今、週に1度は講義してはいるんですけども、本当の専門は機械工学の方でありまして、そちらのほうの話をすればいいんでしょうけどもおそらくその話をすると3分で皆さんは眠くなりますのでその話はしません。それでは私の生い立ちからお話したいと思います。私が生まれた八幡町というのは大変郷土的には恵まれたところでございます。仙台の青葉区の土橋通りをまっすぐ上がっていきますと龍雲院というお寺がありまして、そこに林子平の墓があります。これは、翁朝盛が制作している林子平像です。翁朝盛と言えば河北新報社の前にあります「新聞少年」とか、それから

仙台市の博物館に行きますと「魯迅の碑」とかですね、ああいうような有名な彫刻を手がけました。娘さんもその彫刻の道に進まれたようです。それで実はですね、お寺に現在安置してある林子平像なんでありましてけれども、こないだお参りに行きましたらですね、この像の中は全部空洞になっているんですよ。このことはすぐには分かりませんでした。ちょうどこのお寺は私の家を中心にとすると、北東の方にあるんですね。余計な話かもしれませんが、これは林子平が描いた地図です。林子平が描いた地図にはどんな意味があったのかというと、その頃は例えば仙台藩と米沢藩のようにいわゆる隣近所陸続きの戦が多かったのです。この図は日本を中心とした地図です。ところがそのときに今の朝鮮半島の先にカラフトがあり蝦夷地（北海道）の北にサハリンがあります。サハリンは今でいう樺太ですね、こういう地図を彼は書いておったんですね。そうしたら幕府方といたしましては実際はどうなっているんだろう、ということで調査に出されたのが間宮林蔵でした。この地図は結果的には「間宮海峡」を発見する基になった地図であります。それから家の北西の方向に大崎八幡神社というのがあります。これは桃山建築の建物で、歴史的にも古いものなんですけれども実はその社殿の前に林子平考案の日時計風の物が置いてあります。大崎八幡神社では林子平考案の日時計というように案内しているんですけども、本当は分からないということで、そのあたりをちょっと調べているところでございます。それから家の南西の方向ですね、南西の方向にはいわゆる三居沢発電所があります。明治14、5年頃に宮城紡績というのがあって、そこが16番糸とってだいたい太い糸を生産していました。なかなか採算が取れないものですからそれをカバーするのに夜間操業してその辺をカバーしたいという考えがありました。実際には紡績機を動かしていた水車に直接発電機を取り付けまして工場内点燈を行いました。そのときに使用した発電機は出力5キロワットの直流発電機で、これは東京帝国大学の電気工学科を卒業された藤岡市助という方が設計しています。この藤岡市助という人は、いわゆる現代でいえば実業家ですね。東芝をあとで創立しました。それからこれはドイツのシーメンス社製の発電機です。現在600から800キロワット内で発電しています。今の三居沢発電所は、3番目に作られた発電所です。それからこれが当時作業しているところでございますけれども、これをよく見ますとドイツの技師が来て実際に組み立てて、据付工事を行っているところです。それから三居沢と言いますと、日本で初めてカーバイドを製造したところでもあります。発電所のいわゆる東側です。この人は藤山常一といまして佐賀県出身の方です。東京帝国大学の電気工学科出身ですね。この方はいわゆる電気工学に化学工学を導いた人と言われております。それから今度は家から南東の方向ですね、南東の方向には宮城第一高等学校、前は一女高といったあの学校があります。その校地は海軍大将山梨勝之進の邸宅跡です。現在の天皇が学習院に通学しておったときの院長先生でもあります。実はこの山梨勝之進先生、東北学院とも関わりがありました。東北学院が昭和19年に、東北軍管区から廃校命令

が出されます。ところが学院のOBに(株)カヤバ工業を創業した萱場資郎という方がいたんですね。仙台でいうと荒井の方に住んでいました。そこから学院の中学部に自転車で通学しておりました。実は学院に廃校命令が出たときに、陸軍、それから海軍に対して軍需産業の面で貢献しておりました。従いまして軍に対してかなり強い意見を言える人、そういう立場にあった人ですね、それで学院に対する廃校命令を撤回させた、東北学院からしてみれば恩人です。その時の校長が宮城県知事もされました宮城音五郎先生ですね。仙台の河原町を過ぎますと以前北日本電線(株)というのがありましたが、その北日本電線の場所がいわゆる萱場製作所仙台製造所でした。日本で唯一、オートジャイロを作る工場でした。いわゆる現在のヘリコプターの前身というものを作っておりました。東北学院からは戦時中、その工場に学徒動員で行っております。それで同時に萱場さんは工場実習も兼ねて自分の工場を提供したということでもあります。東北学院としては忘れられないかなりの恩人だと思います。それからこの方は小野さつき訓導で、訓導というのは今で言う小学校の先生のことです。その訓導は大正11年3月に宮城女子師範学校を卒業しました。宮城女子師範学校の後に一女高になりました。大正11年7月7日の日ですかね、絵描きのために子供達を白石川の川べりに連れて行くんですけども、そのうちの3人ですかね、その白石川で溺れました。そのうちの2人までは助けるんですけども、もう1人の成沢君という人と力尽きてですね溺れてしまいました。現在の宮城第一高校の中庭に小野さつき訓導の記念碑が建っています。また、「山梨勝之進寓居跡」の碑もその一角に建っています。というように私の家の周りは史実に残るようなものがたくさんあります。まあそういうような環境の中で私は育ちました。

実はここからが学院との関わりを話すことになりますけれども、ちょうど私の家のそばに尚綱女学院があります。これは学院とは宗派が違いますね。東北学院の場合はドイツ改革派でありますけれども、尚綱の場合にはバプテスト派です。私の遠く離れた姉が唯一クリスチャンでありまして、その姉が尚綱に行っていました。日曜学校というものをやってみて、そこにとにかくあまり人がいないからかお前もこいというようなことで私も日曜学校に出席していました。そのときは分からなかったんですけど、佐藤みさお先生という方がおられました。その先生が讃美歌をひらがなでずっと縦書きに模造紙に書きまして、讃美歌を練習させる前に、この意味はどういうことなんだということをいろいろ聞かせるわけなんですね。ですけど私は所詮“サクラ”ということであまり頭には入りませんでした。ところが私の姉は非常に熱心なクリスチャンといえますか、クリスマスが近づきますと、近所の人とか家の親戚の人を集めて「イエスの降誕」のような劇をやらせるんですね。私も、あなたはこういうことをやるんだよ、と言われましてなんかいろいろさせられました。また、クリスマスのいろんな飾りを作ったりして、キリスト教の雰囲気を感じたものでした。ところが、私はクリスチャンではありませんけれども、そのキリスト教との決定的な出会いがありました。私は

榴ヶ岡高校におりまして、たまたま1回生ではあったんですけども、今の榴岡にはその校舎はありません。いわゆる第二師団歩兵第四連隊の跡であります。話によると東北学院としては一時しのぎにこの場所を借りることにしたということです。私が面接を受けた時は「あなたは多賀城に通いますか」ということを小笠原政敏先生に聞かれました。小笠原先生が榴ヶ岡高を受けた時の面接員だったんですね。私は行くところがなかったものですから「はい、行きます」なんて言いましたけれども、本当は大変だと思っていました。この榴ヶ岡校舎はなんていいますかね、非常に天井が低くて日中でも暗いんですよ。ですから一日中蛍光灯がついておりました。校庭なんかも砂利だらけでしてね、全然運動場としては使えるような広さでもなければ荒れた状態でございました。ですけどもその榴ヶ岡高等学校で非常に影響を受けたのは月浦先生でございました。現在北山の墓地に眠っておられます。この月浦先生の写真は卒業アルバムから取ったものでございます。「人の歓心を買おうとすれば、私はキリストの僕ではあるまい」という言葉がそえられており、我々同期生は、この教えに共鳴しております。私は榴ヶ岡高校を出ますと学院大の工学部に行きました。昔は工学部に、機械工学科を設置する場合は、機械工場が必要条件といえますか、必ず付帯工場として実習工場を持つ必要がありました。米軍の通信施設を利用しました。その頃船岡に海軍火薬廠がありました。角田のご出身ですかね保科善四郎という代議士がおりまして、「宮城県を豊かにするにはどうしたらいいか」ということで船岡に火薬廠を作ります。そこで作った火薬を多賀城の海軍工廠に持ってきて、零戦に積む20ミリの機関銃を作っておりました。多賀城キャンパスは、この工場で働く男子工員の宿舍跡だったわけです。それから県北から来たいわゆる旧制中学生の寄宿舎もありました。その後日本が敗戦したことから米軍のキャンプとなり、その後を受けて買ったのがこの本学であります。自己紹介といえますか、少し話が長くなりましたが、今から30分くらいで話をやめますから大丈夫です。

どうして押川方義のことを調べたかということではありますが、実は私が工学部を卒業しましたのが昭和41年の3月です。すぐに大学院へということではあったんですけども、その時は応用物理学科だけがいわゆる大学院としてあり、機械工学科は別でした。私が助手をしておったとき、図書館へ行きましたらこの本に出会ったわけです。「大信の英雄押川方義」というのがありました。榴ヶ岡高等学校では月浦先生がシュネーダー先生の話をよくされました。私が大学に行きましたらですね今度は小田忠夫先生が、どちらかというのですよ、押川先生の話の時々お話してくださいました。高等学校のときは押川先生の話はあまり聞きませんでした。大学に来て初めてその押川先生のご思想というんですかね考えなんかをよく礼拝で聞きました。これは薄い本ですね、これだったら本を読むのが苦手な私でもいくらか読み通せるのではないかということでもちょっと中をのぞいてみました。そこでたまたま「大信の英雄押川方義」という本の一番後ろを見ましたら、編集・発行者として手塚たけよという名

が書いてありました。また、基督心宗教団と書いてありました。押川先生という人はどうい
う人なんだろうか、少しその話を聞いてみたいと思ひましてある時電話をしたんですね。そ
うしましたら手塚たけよさんは、たまたま「宮城県の角田市のご出身」と伺いました。「ここ
には押川先生の遺骨があります、爪や髪なんかもありますよ」というような話をされて、私
はいつのまにかミステリー番組にはまったかなという感じで、それをちょっとのぞいてみた
い気になりました。それで学会に行ったついでにそちらに足を運んだというのが正直なところ
であります。これがきっかけだったわけなんですね。それから私は墓標なんかを訪ね歩く
のが好きでした。また、これもあとで話が出ると思ひますけれども、川合信水という押川先
生が一番弟子を自負されている方のことではありますが、川合信水の直筆のサインの入った「押
川方義聖書講義」という厚い本を手にいれることができたりしました。今日は重いもんです
から持ってこなかったですけども。あとはここに「聖雄押川方義」という本があります。
これも実はですね古本屋で見つけたものだったんですが、なんとこの中に著者から呈上とあり、さらに D. B. シュネーダーのサインがありました。それからですね東北学院の英文科を卒業
された方だったんですが、ちょうど日本が朝鮮半島を併合している時期だと思ひますけれど
も、朝鮮元山と地名が書いてあったと思ひますが、そこにうちの英文科を卒業して英語
の教師として赴任した方がいます。栗野徳一さんです。この方が学校に対して多額の寄付を
したんですね。そうしましたらですねその人が卒業をしたときの卒業証書、押川方義と墨書
きした、証書そのものが売りに出されていました。それが古本屋から出てきました。学校に
納めなさいなんて言われるもんですから今日は置いてきました。そういう訳でだんだん押川
先生のことにはひかれていきました。それでいよいよ本題に入ります。必ず 30 分で終わります
から。

いわゆる墓標めぐりといひますかね、きっかけは手塚たけよさんという方に電話したのが
きっかけでございました。それでいろいろ調べていく間に、実は今日のレジメにもありまし
たように、押川先生の遺骨が 4 箇所、分骨されていることがわかりました。それで北山墓
地にはその約 8 割方、それからその残りの 2 割方が 3 箇所に分骨されているということがわ
かりました。それを順を追ってお話したいと思ひます。それでレジメにもありますように押
川方義先生の葬儀がどう行われたのかということで調べましたところ、昭和 3 年 1 月 10 日
午後 10 時 45 分に文京区の別邸で亡くなられました。この別邸で亡くなられたということは、
押川先生が再婚されておりました。それもお亡くなりになる 8 ヶ月前にその基督心宗教団の開
祖であります、川合信水先生の紹介で今西春子さんという方と再婚されておられます。別邸と
いうのは今西さんのお宅で、その今西さんはおそらく身辺をお世話されていたんだと思ひま
すけれども、そこでお亡くなりになりました。それから本邸のほうに戻ってきまして、そこ
に書いてあるような内容で実際に葬儀が行われました。詳しいことはあと読んでいただき

いと思います。川合信水や吉田亀太郎とかいう方がだいぶお世話をしていたことがわかります。それから押川方義の墓碑建立については後でお話したいと思います。毎年5月15日になりますと東北学院の創立記念日には必ず北山のほうに学長をはじめおいでになるわけですが、押川方義の墓のそばに次女克子さんの墓もあります。まずはじめに、仙台の北山キリスト教共同墓地のことについてお話したいと思います。押川方義の墓標のそばに東北学院同窓会の銘が入った花立てがございます。この花立てはシュネーダー先生の花立てと関係があります。シュネーダー先生の墓標が作られたときは、この墓標だけです。この前に花立てがありますけれども、これは最初はなかったんですね。それで同窓会の諸氏が中心になりまして「ここに花立てを贈ろう」ということになりました。これが第一の目的だったんですけども、押川先生のほうにも花立てがないというんで、一緒に花立てを作っております。それでちょっと調べてみましたら現在東北大学北門の近くにある教会のそばに千田建築設計事務所があります。実は千田惣兵衛さんといってこの方は仙台工業高等学校の建築家のご出身なんです。私たちが今わかる建物としては後藤紅陽の写真館（東一番丁）があります。この方が千田惣兵衛さんです。この方が花立てを設計されました。非常に芸術のほうも堪能でありました。それからシュネーダー先生の墓標と花立てを仙台の石切町にある小梨石材店から購入しています。この方が小梨政之助さんです。小梨さんのところではこの墓石もやりますけれども実は三居沢発電所の青葉隧道といって、水をひく工事なんかも手がけた人です。これはご存知のように「押川方義聖書講義」という厚い本の口絵に出ている写真であります。この本は押川先生が東北学院神学校で説教されたものをまとめたものです。川合信水はまとめた人です。川合信水は京都の綾部にある郡是製糸というところでいわゆる社員教育をしておりました。これは不二山荘にある基督心宗教団です。20年くらい前に私が訪ねたときの本部です。現在は新しい記念館が建っているそうです。この方が角田市出身の手塚たけよさんです。それからここが川合先生の書斎です。私が訪ねました時は、手塚たけよさんが不二山荘のいわゆる総責任者という立場でおられました。現在は新しい記念館ができましたので、その中の資料は手にとってなかなか見せてもらえないというようなことを言っておりますけれども、私が行きましたら手塚さんは大変喜びましていろいろ待遇よくしていただきました。私はそのときいろいろ手塚さんからお土産をいただきました。まず押川方義先生の写真、それから「押川方義先生の教育法」というレコードです。これは学院中高にも私奇贈しております。「島崎藤村と東北学院」という渥美孝子先生が編集された本がありますけれども、その中でも紹介されています。それから、この色紙ですね。これは「勉強忍耐」とありまして、ここに「山月」という号が入っております。「サンゲツ」という商品名でカーテンの生地なんか売られていますね。あれは川合先生の「山月」というのが基になっています。不二山荘の一角に二つの納骨堂があります。一つは信徒のもの、「誠信靈界に通達し、真情故人に会見す」と碑面に彫ら

れています。もう一つは川合信水ご親族一同のもので、これはレジメにも書いてありますのでここんところを見てください。それから手塚たけよさんが私に「押川方義の遺骨がある」といわれたものが、これでありました。これがもう一つの納骨堂なんでありましたけれども、その後の扉を開けてくれました。その最上段の棚に押川方義先生の分骨がありました。これはです、よく農林1号なんていってよく円錐のガラスの容器にいれますが、あれと同じような形をしたもので、片方に頭髪、もう一方の容器に爪が入ってありました。そしてその納骨堂の碑面には「誠心貫徹而枯骨蘇生 至情感応而故人出現」と彫られておりました。次に川合信水の書齋に案内されました。これは押川先生と川合信水先生との間のいわゆる往復書簡です。これを開いてどうぞ写真に撮ってってくださいということでした。そしてこの往復書簡は後に刊本となり、学院大学の中央図書館や宮城学院、榴ヶ岡高等学校、中・高等学校の図書館に入っています。

東京の雑司ヶ谷墓地に押川家の墓があります。これはその配置でありますけれども中央に大きな墓標がありまして、この一番目が押川方義先生のもの、それから押川方存、その長女、次女らの墓標があります。すべての墓標は花崗岩でできています。「押川家墓」の裏には「大正九年秋 方義建之」と刻まれてあります。これは「春浪天狗碑」です。押川方義の長男の押川方存という人を顕彰するために天狗同人が建立したものです。碑面の書も押川先生によるものです。押川方存も学院の中学部に在学したことがありますけれども、いわゆる荒い性格といいますか、そういうことで東北学院を卒業することもなく東京の方に転校していきました。その方が後に今でいうSF作家ですかね、それで名をあげまして「海底軍艦」とか「義侠世界」などいろいろの本を出されて、かなり有名になりました。それからこれは墓の一角でありますけれども押川方義先生の墓標があります。これは周りの標柱よりも一回り大きく作られております。その隣りは春隆という人の墓標でありまして、押川方義に非常に可愛がられたお孫さんです。ほかの方々はこういうように墓標が並んでおります。詳細はレジメを見ていただきたいと思います。

ざっとあらひ話ではありますけれども、一時間厳守ということでこの辺でまとめさせていただきます。今日お話したのがなんなのかといいますと、一つは私が大学在職中に感じたことであります。それは自分が東北学院というところに勤めておりますと、その東北学院に関する資料をいろいろ調べたり集めたりするのは一番安上がりで正確なものが得られるということでもあります。ただし戦時中の記録などは難しいようです。ただ青山学院などは本学と同じミッションスクールでありますけれども、戦時中に学徒出陣して戦死した人達のことを本にちゃんとまとめています。その点ちょっとまだ学院はできていません。要するに戦時中の記録が一つ抜けています。それから皆さんの家の周りにも、ここ掘れワンワン、ここ掘れワンワンではないですけども少し深くちょっと探りを入れると意外と多くの史実

に出会うということでもあります。そしてそれがみんなつながっているということです。ですからそういうのにも関心をもたれてはということです。それから東北学院の施設は意外と戦争との関わりがあります。私の拙い経験ですが、最初に通学した榴ヶ岡校舎は、陸軍第二師団歩兵第四連隊の跡です。実は工学部なんかも多賀城の海軍工廠関係のものです。それから東北学院なんてやめなさいといわれて助けてくれた人がやはり軍需工場経営者の萱場資郎で、東北学院のOBでした。身近なところに戦争の影が残っています。しかし、東北学院としてはあまり明瞭に、表に出しておりません。まあそういうことをちょっとお話しました。最後に一言なんですが、押川方義先生という人はいろんな言われ方をする風評のある方であることをなんとなく調べていてわかりました。どうぞ勤務している間に関心のあることをお調べになったらいかがかなと思います。まだまだ宝があるというのが私の率直な感想でございます。以上で終わります。

朝拝奨励

宮城光信 常任理事

「受けるよりは与えるほうが幸いである」

東北学院常任理事 宮城光信先生

聖書：使徒言行録 20:17-38

お早うございます。2ヶ月ほど前に佐々木宗教部長から、自己紹介も含め、修養会でお話していただきたいということでした。このように沢山の教職員の出席に驚きましたし、また昨日はICUの北城理事長の格調高い講演の後でもありますので、責任の重さを感じています。用意した原稿に沿ってお話させていただきます。

私は東北大学では教務委員長、評議員、工学部長、経営協議会委員、総長選考会議副議長、また仙台電波高専、宮城高専、仙台高専では校長として働いてきました。長をした関係上、総務、財務にもうといわけではありませんが、国立と私立大学とでは状況が全く異なっておりますので、どちらかという、学務とか教務が自分には適した分野です。東北大学工学部では、国立大学の法人化をはさんでの学部長でしたので、法人化に対応した運営組織の構築を行いました。また高専では、将来のことを考え、徹底した改革を行いました。研究の上では、唯一実用化されたものとして、歯科あるいは耳鼻科で使用されているレーザー治療器があります。私のアイデアに基づいたその医療機器は世界中で広く普及しています。また、私の趣味は花や木を植えることです。高専の近くの芝桜、家の近くの道路、どちらも200～300mあります。学生の力を借りました。植えるのは比較的簡単なのですが、最近はそのメンテナンスが大変なことを実感しています。

私自身40年以上も国立大学、高専で教育・研究・管理運営をしておりました。国立機関は法人化あるいは独立行政法人化によって驚くほどの変化をしています。そのただ中で仕事をしてきましたので、その経緯は東北学院大学にも参考になるのではないかと思いますので、何らかの形でそれを生かしたいと思います。ただ、今日は東北学院大学の修養会ですので、建学精神であるキリスト教との関わりのお話がいいのではないかと思います、多少は固くなりますが、不得意なお話をいたします。また自己紹介もありますので、それに関連した横道もお許しいただきたいと思います。

0. 前置き——私の東北学院での立場

私はこの4月から2年間の任期で、総務担当常任理事という職が与えられています。「総務担当」というと、通常世間の理解ですと、東北学院の中核としてかなり幅の広い任務を担っているととらえられています。ただ、東北学院ではこのポジションは新設ということもあり、また有能な常任理事がおられるということもあり、当面の間は、これまで他の常任理事が行っていた仕事の隙間の業務、例えば、東北学院のプレゼンスを高めるための広報関係の仕事、あるいは他の理事の手の回らない新しい任務を行うということになると思います。私はこの2年間、というよりはもう1年半になってしまいましたが、何らかの成果を出すために雇用されている、という認識でいます。今日ご出席の皆さんの殆どの方は東北学院に勤務している、という気持ちで働いていると思いますがどうでしょうか。私はそうではなく、やはり「雇用されている」という気持ちです。「勤務」と「雇用」にはそのニュアンスに違いがあります。そういうわけで、短期間で皆さん以上に有形・無形の結果を出さなければならないと思っております。5ヶ月間を東北学院で過ごして参りました。国立大学とは異なる私立大学の経営の難しさ、課題も少しずつ見えてきています。これは外から来た人でないと思えないものだと思います。課題の解決は自分だけでは決してできるものではありませんで、皆さんの協力が必要です。どうぞ宜しく願い致します。

今日のお話の内容は大きくは

1. 私は何故、キリスト教信者になったのか
2. 私のキリスト教信者としての教会生活
3. 私を支える聖書の言葉

の3点ですが、若干、付随したことも話させていただきたいと思います。

1. 何故、キリスト教信者になったのか

1.1. 高校から大学へ

私は1942年に北海道函館市に生まれました。第二次世界大戦の影響で田舎へ疎開しましたが、中学2年生から再び函館に戻り、1961年、北海道函館の高校を卒業し、東北大学工学部に入学しました。入学のきっかけは、理数科、特に数学が得意だったことによるものです。将来、技術者になりたいとかというしっかりした目的を持っていたわけではありません。今の高校生、あるいは大学の先生から見れば、全く恥ずかしい限りです。大学への進学率も10%前後の時でしたから、せいぜいもう少し高度の勉強をしたい、という気持ちがあったこと、父親が学歴がなかったために苦労したということは何となく感じていたことにもあるかもしれません。

高校1年生の時ですが、数学の先生が、「君たち、頑張らなきゃ駄目だ。人の3倍やらな

ければ駄目だ」ということを私達に話していました。この「3倍主義」の言葉が、私の高校、大学そしてその後の生活を支え、今でも私の原動力になっています。仕事の量 = (能力) X (時間) だとすれば、能力が小さいのであれば、時間で稼げ、ということです。ですから、努力さえすれば何らかの結果が出るのではないかと、ということです。現実にはいくら努力しても無理なことはあるのです。それでもなお、努力することは大切ですし、出ないとしても満足である、というのが私の考えです。ただ、高校の同級生にこの「3倍主義」のことを聞いても覚えている人はあまりいないようです。何か指向性の鋭い私のアンテナに引っかかったのかもかもしれません。

1.2. 学生寮

東北大学に入学し、学生寮に入りました。私の入った寮は全員で80名位、1学年20名位のこじんまりとした寮で、同級生はもちろん、先輩もすぐ覚えられる規模の寮でした。寮設置の経緯もあり、理工系学部の学生が多く、大学1年から4年生までが主ですが、博士課程までの学生も入寮していました。私は、この寮には博士課程修了の1年前までの8年間住んでおりました。昔ですから、プライバシーなどもなく、3人から4人が一部屋に住むという生活でした。恵まれていたことには、同室だった先輩は学問が本当に好きな人達で、その影響を大きく受けました。また、高校時代さっぱり文学作品を読むこともなかったのですが、倉田百三の「出家とその弟子」に大きな感銘を受けました。親鸞の「善人なおもて往生す、いわんや悪人をや」という思想に魅了されました。自分自身、何とはなく持っていたものに出会ったことによるものです。また、友人から紹介されたロマン・ロランの長編小説「ジャン・クリストフ」をむさぼるように読み、ジャン・クリストフのスケールの大きさに圧倒されると同時に、私もそのようになりたいものとの思いが持ち上がりました。私の本来の内向きの姿勢を、外の大きな世界に目を開かせてくれました。

1.3. キリスト教との出会い

大学4年の頃と思います。元東大総長の南原繁先生の本を書かれた本を読む機会に恵まれました。読んだきっかけも内容も今は覚えておりませんが、その時の印象は私にとって、新鮮で強烈なものでした。この先生はどうして人のことを深く思いやり、優しく、清らかな心を持つようになるのか、ということでした。また、その頃、私は父を失い、私のことを気にかけてくれた祖母を失い、引き続き何人かの親戚の人を失い、葬式によく出ていました。更には大学院の2年の時、私の尊敬する指導教授が教授室で突然、倒れ、その夜のうちに病院で亡くなってしまいました。その先生を慕って研究していたので、私にとっては大きなショックでした。研究も手がつかず、2週間位も北海道の家に帰りました。それ以来、私は「人の死」というものを深く考えるようになりました。また、矢内原忠雄先生

の無教会キリスト教主義の本もよく読むようになり、キリスト教に少しずつ、触れていくようになりました。

1.4. 受洗

ある時、隣の研究室の研究者から、教会に行ってみないか、と誘われました。その人はクリスチャンではありませんでしたが、奥さんは私より一つ年上の敬虔なクリスチャンでした。そのことがきっかけとなり、仙台長町教会に行くようになりました。誘われてから殆ど休みなく通いました。まだ寮におりましたので、八木山の寮から30分ほど歩いて朝8時過ぎにはその方の家に行き、奥様手作りの朝食を食べ、教会に行き、帰って昼食をご馳走になり、トランプをしたり、本と一緒に読んだり、夕食まで食べて過ごした日が1年位続きました。本当に私のことを面倒見てくれたと思います。また、私も随分、図々しいことをしていたと今にして思えば、赤面の限りです。このようなことをしてくれた新婚の夫婦がいたことを知って貰いたいのです。

1年後の昭和43年4月14日に受洗致しました。私が25歳の時でした。キリスト教をよく理解したとか、何かインスピレーションを受けたとか、ということで受洗したというわけではありません。何かしっかりしたものを自分の基盤にしたい、という思いからです。受洗することによって、自分の拠り所はここにある、ということを表示したかったのだと思います。

2. キリスト者としての教会生活

2.1. 聖日礼拝厳守と教会学校

受洗以来、聖日礼拝は厳守いたしました。学生時代で、お酒を飲むことはそう多くはなかったのですが、アルコールを飲むのも、受洗をきっかけに止めました。キリスト教のある宗派の中にはアルコール禁止という宗派もありますが、私はそのようなことで止めたものではありません。キリストが私達のために十字架に掛かって死んだように、キリストのために、何かを捨てたいという気持ちだったと思います。また、お酒をおいしいと思ったこともありません。私の父はお酒が好きで、それゆえに母は大分苦勞したと思います。母に私達は、お酒だけは飲んでくれるな、とよく言われました。

私は全てにわたって日曜礼拝を優先しました。それは今にして思えば、律法的と思われるほどだったと思います。例えば、親戚で法事があっても、礼拝を済ませてからでないと出席しませんでした。お盆でお墓参りをする時もお線香をあげることに躊躇しました。受洗してから1年後に、教会学校教師としても働きました。20年程、続けました。今は全くしてはおりません。また、私は32歳から1年半ほど、カナダのマックギル大学で研究生活をしましたが、教会の聖日礼拝、日曜日の夕拝その後のコーヒーマーケットを家内と共に

行いました。祈祷会にも出席し、英語でお祈りをしたりしました。さすがにそれは結構きついで、日本語ではいけませんか、と牧師に尋ねたところ、神様は何語でも分かるのだから、日本語でもいいですよ、と言われ、助かりました。英語が不自由であるにもかかわらず、モントリオール肢体不自由児の病院での日曜学校教師を行いました。子供たちから沢山のことを学ばせていただき、楽しい時でした。

2.2. 信仰の小さな転機

このような状況の中、私に一つの転機が訪れました。それは信仰のある先輩からの助言です。「宮城さんはこうすべきだ、宮城さんはこうあらねばならない、宮城さんはこのような人だから、ということで動いているのではないのか？もう少し、信仰において自由になってもいいのではないか。」というのです。私自身、人によく思われるようにと思って行動していたわけではありませんが、やはり、信仰において、こうあらねばならない、という意識があったように思います。また、それが自分を悪い習慣から遠ざける一つの壁になっていたことも確かです。いずれにしても、この一言により、その後、私は比較的自由的な気持ちになって教会生活を送るようになっていきます。ほどほどの常識人になったということでしょうか。また、昔はお酒を飲まないというと、真面目ですね、と言われたものです。お酒で苦労した人が多くあったからです。お酒を飲むかどうかというのはあまり本質的なことではありません。大事なことは愛があるかどうかでしょう。しかし、お酒によって過ちを起こす確立は高いことは確かです。皆さんには当てはまらないかもしれませんが。

2.3. 論理的でない私を支えているもの

キリスト者として、聖書を読み、研究し、祈り、学ぶことは大切なことだと思います。聖書研究に熱心な方も多くおられます。ただ、私にあるのは、行動です。聖書の理解も頭だけでは私にはできません。聖書の言葉を暗誦することも得意ではありません。もう40年も教会生活をしているのですが、聖書の理解は貧しいものです。私はキリスト教を伝えるのが本職ではありませんので、私はそれでいいのではないかと考えています。聖書の中の一つのことさえ守ることが出来れば、すごいことだと思っています。人間の救いは行いによるのではなく、ただ信仰によるものと聖書で教えられています。ただ、行いが信仰を持続できるのではないかと考えています。私は自分の体験を通して、聖書の御言葉を理解するようにしています。

同じようなことは私達の職場についても言えることがあります。SD、FD研修会も大事ですが、それ以上に、職場に来たら大きな声で挨拶するとか、帰りにはお先に失礼しますと言うとか、あるいは学生あつての大学・学校ですから、学生にどうしたら喜ばれるサービスを提供できるかなど、思いついたら悩まないですぐ、実行に移すのが大切だと思います。

完璧な理論、規定を作る前に行動する。問題が出たら修正すればいいと思います。理論の完全性に時間をとるよりは、迅速な行動が現実的だと思います。

3. 私を支える聖書の言葉「受けるよりは与える方が幸いである」

そこで、私を支える聖書の言葉を皆さんにお伝えしたいと思います。私は罪深い人間です。もし、私の全容、私の過去、私の心の中を洗いざらし皆さんの前に明らかになるとすれば、ここに立って説教めいたお話をすることはできません。神様はそれらをご存知の上で、それらを隠し包み、そして私を用いて皆さんに聖書の言葉を語らせてくださっていることに深く感謝しています。私の実体験をもとに一つのお話をさせていただきます。

3.1. 「受けるよりは与える方が幸いである」

パウロは3回にわたって、地中海世界へ伝道旅行を行っております。最初に読みました使徒言行録の20章17-35節までは、その3回目の時のエフェソの教会員に対しての「お別れの説教」です。パウロはエルサレムに行こうとしていますが、そのエルサレムでパウロを迎えるであろう、試練、苦しみを予見しています。自分は自分の与えられた道を走り通した。神様からいただいた恵みの福音を力強く証するという自分の任務を果たささえすれば、自分の命さえ惜しいとは思わないと言っています。パウロを信頼しきっていたエフェソの教会員は、パウロにはこの世ではもう二度と会うことが出来ないという、悲しみの中にあって別れるのです。

パウロの説教の35節に、「あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました」とあります。パウロはイエス様に直接会ったことはありません。不思議なことに、この『受けるよりは与える方が幸いである』という言葉は、この箇所を除き、聖書のどこにも出てきてはいないということのようです。

「受けるよりは与える方が幸いである」ということの意味は明瞭です。慈善活動は正に、自分の受けることを考えず、むしろ人のために与えるための活動でしょう。様々なボランティア活動も人に与えるためでしょう。マザーテレサの行為は正に、キリスト教の、神様から賜った命をもつどのような人でも愛し、人のために尽くすという教えに基づいているものです。そういう意味からしても、この「受けるよりは与える方が幸いである」という聖書の御言葉はよく分かりやすいものと思います。

逆説的なことですが、私は人は「受ける」ということは易しいことなのだろうかと考えています。皆さんはどうでしょうか。私の信仰による行為の原点なので、その経験をお話したいと思います。

人の家にお邪魔し、帰る時、あるいは日本風のお店を出る時に脱いだ靴を履きます。そ

の時、靴べらを出されることがよくあります。私は以前は、その出された靴べらを拒み、自分の靴べらを使う時が多くありました。あるいは、靴べらがない時には、差し出された靴べらを使用せず、自分で無理に履いてしまうこともありました。また、雨の降りそうな時、傘を差し出されながらも、それを拒んで急いで帰る、という時もありました。他人の善意を受けとめるということは必ずしも易しいことではないというのが、私の経験することです。人の善意を素直に受けることによって、人と人との間でまごころの通う良い関係が出来るのではないかと思います。

この「受ける」ということについて、イエス様が行った行為に私は強く感動する箇所があります。それは、多少、記述に状況は異なりますが、4つの福音書全てに記載されています（ヨハネ 12：1-7、ルカ 7:36-50、マルコ 14:3-9、マタイ 26:6-13）。イエス様の葬りの準備のために、罪深い女の人が泣きながらイエス様の足を涙で濡らし、自分の髪の毛でそれをぬぐい、高価な香油を塗ったというものです。その香油は高価なもので、それで足を拭くなどもったいないことです。また女性が自分の大切にしているであろう、長い髪の毛で人の足を拭くというのは、どんなにか感謝と愛情と親愛にあふれたものでしょうか。女性ではないので分かりませんが、想像するに、これ以上の心の表れはないのではないのでしょうか。イエス様はそれを女性のなすがままにさせた、ということです。イエス様は心から、その行為を受け入れたというのです。マタイ福音書の26章13節、マルコ福音書14章9節には、「はっきり言っておく。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう」という賛辞の言葉が記述されています。そして実際に、2000年経った今、正に、イエス様のおっしゃったように、この女性の行為は私達に深い感動を起こさせているのです。本当に長く伝えられていることに感謝を捧げたいと思います。

ヨハネ福音書3章の16-17節には、「神は、その独り子をお与えになったほどに、この世を愛された。それは御子を信じるものが1人も滅びないで永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わせたのは、世を裁くためではなく、御子によってこの世が救われるためである」とあります。神様はその大事な独り子を私達にお与えになっています。私達が永遠の命を得るようと、私達一人一人を思い、与えてくれたのです。それを喜んで受け入れるか、No Thanks と言ってお断りするかは私達の自由です。

「受ける」と、言えばイエス様は本当に神様のご意志を「受ける」人だったと思います。そして「与える」と言えば、最後には自分の命さえを与えてしまわれました。「受けるよりは与える方が幸いである」という御言葉は、「真に受けることの出来る人は真に与えることができる」ということでもあると私は確信しています。私は人の好意を素直に、出来るだけ喜んで受けるようにしています。やはり、「出来るだけ」という修飾語をつけなければならないのが限界です。

私は高専で力を注いだものが幾つかあります。その一つは発達障害をもつ学生の問題です。それは発達障害をもつ学生が5年間、高専で学んだことが楽しかった、と思うようにしたいことです。現実には、5年間を終えて社会に出、それなりの企業で職をみつけるのは至難なことです。特に雇用が限られている現状ではなおさらです。しかし、私は夢をもっています。新しい時代は必ず来る、という確信です。今出来ないことが必ず可能となる時が来る、という確信です。発達障害の学生が皆さんに助けられ、生き生きと仕事ができる時代の到来です。

数ヶ月前のことですが、高専の校長を終える時、2年生の一人、17歳という若い学生との出来事です。その学生から、コーヒーのセットを貰いました。勉強が遅れていた学生の一人を、私の最後の任務と思い私が勝手に「校長塾」と称して、2週間ほど校長室でその学生が単位取得の条件としての宿題である、数学を教えていました。校長としての3月31日の最後の日でした。自分のお小遣いから、わざわざ藤崎デパートから買って来たということでした。このような若い学生から物を貰うというのもどうかと思いましたので、「君が給料を貰う時になったら、喜んで受け取るから」、ということで一度は断りました。しかし、もう一度考え直し、私は最終的にはそれを受け取りました。この学生は、私のために最もいいと思う形で感謝の意を表してくれたものと思います。私はその学生の心を深く理解しました。「真に受けることの出来る人は真に与えることができる」ということを自分に再度、言い聞かせました。そしてまた、私自身そこからまた、新しいスタートをきりました。

東北学院での私の生活は限られています。楽しく仕事をさせていただいていることに感謝しています。私は東北学院の内部の人であると同時に、常に外部の立場でも東北学院を見えています。閉じた世界の論理ではなく、広く開かれた世界の論理で物事を見ることにしています。おこがましいかもしれませんが、教育・研究機関としての東北学院で、少しでも学生サービスに資することが出来れば、ただ、そのことだけを考えて仕事をしています。それ以外の気持ちは私には全くありません。

長時間、どうも有り難うございました。

(祈り)

神様、今日このように修養会場で共に礼拝を捧げることができまして有難うございます。私達は多くの人々の助けと支えの中であって生活しています。どうぞ、私達一人一人そのことを心に留め、感謝のうちに毎日を過ごし、一人一人が自分のタラントを生かし、自分自身が輝く生き方をしていくことができますよう、導いてください。短き祈り、救い主イエス・キリストの御名により御前にお捧げ致します。アーメン。

閉会礼拝奨励

永井義之 大学宗教主任

「人間は何者なのでしょう」

東北学院大学宗教主任 永井義之

聖書：旧約聖書 詩編 第8章1節～10節

讚美歌 301番。

聖書、詩編 第8編 1節～10節。

指揮者によって。ギデイトに合わせて。賛歌。ダビデの詩。

主よ、わたしたちの主よ

あなたの御名は、いかに力強く

全地に満ちていることでしょう。

天に輝くあなたの威光をたたえます

幼子、乳飲み子の口によって。

あなたは刃向かう者に向かって砦を築き

報復する敵を絶ち滅ぼされます。

あなたの天を、あなたの指の業を

わたしは仰ぎます。

月も、星も、あなたが配置なさったもの。

そのあなたが御心に留めてくださるとは

人間は何ものなのでしょう。

人の子は何ものなのでしょう

あなたが顧みてくださるとは。

神に僅かに劣るものとして人を造り

なお、栄光と威光を冠としてただかせ

御手によって造られたものをすべて治めるように

その足もとに置られました。

羊も牛も、野の獣も

空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

主よ、わたしたちの主よ
あなたの御名は、いかに力強く
全地に満ちていることでしょう。

8月という月は、日本人にとりまして、特別な意味を持った月であります。毎年、この季節になりますと、今年は大変暑い夏でありますけれども、この8月の時期には、テレビなどでも様々な特集が組まれる。そして、戦後65年が経過し現在に至るそれまでの日本の歩みがどうであったか、というようなことを振り返る、そういう時期であります。第二次世界大戦末期、アメリカのニューメキシコで史上初の原爆実験が成功いたしました。このことは、人間だけがグロテスクなまでに不条理な死を発明することが出来たということであり、自らの技術を通して意味のあるものを全く無意味なものにすることが出来たのだ、ということがありました。戦後の、これは日本の歴史だけではなくて、戦後の世界史というものは、この崩壊を経て生き延びる体験といえますか、それでもなお、生きているという体験から始まっている。人間は自己とその歴史の虚無を見てしまった、ある意味、うつろな空洞を見ながら生きている。このことを思う時、新約聖書のローマの信徒への手紙の8章で、使徒パウロが語った、「被造物は虚無に服した」という言葉を思い起こさせます。

聖書を生み出したイスラエルの歴史を振り返った時、イスラエルが戦いに敗れ、国が滅んだ時に、同じように人間性の崩壊というものを経験いたしました。旧約、哀歌の4章に、こんな言葉が記されております。情け深い女たちさえも手ずから自分の子供を煮て、それを食物とした。これはエルサレムの町が、バビロニアによって包囲されて、その果てにエルサレムが陥落をするその直前の状況でありました。自分の子供を食物とする、という状況さえも生じた。この凄惨な現実を聖書は隠そうとしませませんでした。そして、旧約を読んでおられますと、旧約が人間の尊厳を語るのは、まさにこの時期に集中しております。詩8編の詩人も人間の弱さと脆さを知り、虚無に引き込まれいく自分を意識しながら、夜空を見上げております。どれくらいの時間が経過したかはわかりませんが、その間、詩人は何に圧倒されているのかというと、もはや人間の弱さ、無力、無意味さを思っているのではなくて、いたましくも破れ果てた人間を神の力と神の愛に基づく顧み、それが圧倒していることにただただ感動して、そこに人間が立っている。その経験から、この詩が作り出されたということを私たちは知ることが出来ます。絶えず、虚無に引き込まれようとする人間を変えることが出来るのは、一人一人に心をお配りになる神の顧みであると、この詩人は語ります。

5節のところを注目頂きたいのですが、ここで「人の子」とは何をさすのでしょうか。この言い方は人間一人一人のことを実は意味している表現のようです。6節以降では、その人間一人一人を神が王に任じるといいます。「栄えに輝く王冠を戴かせ」と6節で語られてお

りますけれども、あるいは「足元に従わせ、治めさせる」という表現は本来、王が王位に即位をする、その即位の儀式を描く言葉遣いであるというふうに言われます。まさに人間一人一人は、神が一人一人をその王に見立てるように即位させ、任じているのだというのであります。ここでこの詩人は新しいことを語っています。一つは、この夜空を見上げて、天をあなたの天と呼び、あなたの指の業と言っていることが一つ、そしてもう一つは、一人一人全てが、王なのだ、王者なのだということでもあります。これはイスラエルを取り巻く周辺世界、古代オリエント世界における宇宙論、あるいはそれに支えられた政治構造と言われるものを見ますと、天は神々そのものであって、決して神の指の業ではありませんし、王と言われる人物は一人神を代表して、即位において王の位に就くことによって神の子となるというのが、周辺世界のものの見方でありました。すべての人間が王なのではないわけであります。しかしこの詩人が人間その一人一人が王とされるのだと、いう言い方をあえて言っておりますのは、詩人を取り囲む古代世界の構造が崩れ、新しい神と人間の世界というものが立ち現れる。それは、神々の世界が否定され、まさに神が全世界の唯一の主であること、それを告白することに基づいております。そこで初めて人間の真の位置と使命がはっきりすることを、この詩編8編は語っております。一方で、人間はまさに王の位置に相当するあり方だと語りながら、しかし、その人間の現実がもう一方で語られるわけです。この世界の虚無性であります。確かに聖書の中には、創世記第1章で、自然界に対する人間の王者性といいますが、王としてのあり方、ある意味神を代表するような、神の形に作られた人間という言い方が出てまいります。あるいは、創世記2章でこれは別の背景を持った言い方だと言われますが、アダムとエバの物語が記されている箇所、人間とは、脆さを持った、弱さを持ったものであることが語られます。2章の背後にはダビデ、ソロモン、これは紀元前10世紀ぐらいの時期であります。その時の政治的反映と文化的高慢さに対する反省があり、逆に1章、創世記第1章では、紀元前6世紀ぐらいのバビロン捕囚期、先程のイスラエルの国家が、敗戦にまみれ、国を失うという時期の精神的荒廃に対する信仰の戦いがあったのではないと言われるものであります。この詩編8編では、その両方が一度に語られております。神と世界における人間の弱小さと偉大さ、卑しさと高貴さとが、いわばパラドックスのままに捉えられているわけであります。人間がその支配性を絶対化することも、あるいはその反対に虚無に身を任せることも無く、逆説的な中間性に耐えうるのは、神の力と哀れみに生かされる時だけである。この神の顧みなしに、人間が真に人間らしくあることはない、というのが聖書の主張であります。

私どもは、この修養会開会礼拝において、イエス・キリストを土台として、東北学院が創立されたということを学びました。創立者を崇める個人崇拜に陥ることなく、しかし、そこに人間が関わって、東北学院124年の歩みが続けられてきたことを思います。そこには、そ

の時々の人間がおります。そして、私たちもいわばその一番後列に続くものとして、連なっているわけでありますけれども、私たち人間とは一体何者なのでしょう。この問いを聖書から聞くと同時に愛に基づく神の顧み、その眼差しを背に受けて、私どももこの歩みに踏み出したいというふうに願う次第です。

天の父よ。ひととき静かな環境の中で、自分を振り返りつつ、東北学院の一員としての歩みを顧みるときが与えられましたことを感謝いたします。どうか私どもが先達から受け継いだこの歴史と、またこの東北学院という共同体の重みを担いつつ、私たちもその一員として、新たに歴史を刻んでいく一人一人となることが出来るように導きを与えてください。どうかあなたの私ども一人一人に対する顧みがあることを信じて、私どもの歩みが確かなものとしていくことが出来ますように。この願い、我々の主イエス・キリストの御名をとおし祈ります。アーメン。

頌栄 541 番。

第 15 回キリスト者教員研修会プログラム

日時：2011（平成 23）年 1 月 14 日（金）

場所：仙台国際ホテル

総合司会 大学宗教主任 野村 信

時間・会場	内 容
14:00 ～ 14:30	<p>開会礼拝</p> <p style="text-align: right;">司会・説教 大学宗教主任 佐藤司郎</p> <p>讃美歌 讃美歌 21 56 番 聖 書 新約聖書 コリントの信徒への手紙二 3 章 3 節 説 教 「キリストの手紙として」 祈 祷 讃美歌 讃美歌 21 469 番</p>
14:30 ～ 14:45	<p>コーヒーブレイク</p>
14:45 ～ 15:45	<p>主 題 「宗教活動の再構築をめざして」</p> <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任 村上みか</p> <p>発 題 パネリスト 1 佐藤邦廣先生（20 分） 2 星宮 務先生（20 分） 3 永井義之大学宗教主任（20 分）</p>
15:45 ～ 17:00	<p>自由討議</p> <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任 北 博</p> <p>発題をめぐって</p>
17:00 ～ 19:30	<p>クリスチャン・フェローシップ</p> <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任 出村みや子</p> <p>閉会</p>

主題講演「宗教活動の再構築をめざして」

経営学部経済学科 佐藤邦廣

1. はじめに

①時間が取れなかったことのお詫び

忙しさ（1・5からの授業）、大学とキリスト教活動への愛着〔attachment or identification〕の希薄化（この大学もだいぶ住みにくくなった）

②客観的、思索的より直感的（印象的、感想的）

③唯一の収穫：2005年研修会との比較検討、キリスト教活動ハンドブック（2009）の利用
過去の発題、現状の分析からテーマを明確にし、研究・討論・具体化へと進み解決し、
知識を累積的に深める。問題点の指摘の繰り返しでは発展がないと思った。

2. 現状分析とテーマの設定

①伝統と継承しているもの：建学の精神、礼拝とキリスト教学

②失われたもの：キリスト教学科とクリスマスのシンボル（ケーキ）・祝会の形式化
学院高校の売却（シンボルの喪失と支持者の愛着の希薄化）

③衰退するであろうもの：教職員研修会、キリスト教・キリスト教教員のプレゼンス
（存在感）の低下

④衰退しつつあるもの：礼拝出席

	03	04	08	09
土樋（昼）	71	61	69	35
（夜）	231	236	128	50
泉	415	402	263	297
多賀城	191	220	221	248
計	225	228	182	187

3. 若干のテーマと提案

①建学の精神、教育の理念に真剣に取り組むべきこと

建学の精神の明確化・具体化および現代社会における意義の明確化（グローバル化に伴う世界に通用するキリスト教的教養および独立的人格の必要性：優れた会社の立派な人

格（キリスト教教育で養われているアメリカ、キャノン社長の記事）

(イ) 2009 キリスト教活動ハンドブック：キリスト教に基づく人格教育

福音主義キリスト教、個人の尊厳と人格の完成：独立の人物・完全なる発達・真理探究、
高い技術、それらを正しく使うことができる洞察力を持つ人間

どのような教育課程、行事へ具体化するか

(ロ) 礼拝前後の 10 分を確保せよ〔2 時間目 11:00〕、礼拝前 5 分間讃美歌を流す。宗教諸
活動をリストラ：イースターとクリスマス中心に整備

学校礼拝は学生にとって基本、義務である、強制ではないが〔卒業生〕

②教育方法の思考の違いに決着をつける

(イ) 聖書を知る …………… 信仰 信仰—行為 信仰（神に対する畏敬の念、隣人に対する愛の精神）から、行為（文化の進展と福祉に貢献する人材）へ（p.2）

キリスト者：この世でもたくましく生きるリーダー：事實的知識、行動能力、肉体的強健が求められる（教養と技術、学問の修得と実践的訓練 p.4, 通信 20）

(ロ) 知育編重、頭でっかち、詰め込み型キリスト教育、ワークショップ、体験学習わらじ作りなど伝統文化を取り入れる、実践的活動による社会性、学生が主役〔北 博 2005 報告、2009 報告〕この世で生きる力、知識、行動力の育成を述べている。建学の精神、信仰との位置づけが必要

③建学の精神に基づき、教員が良いと思う方針に従って、学生を教育〔全学的、全体的の場合〕 その他は、個人がよいと思う教育方法で行う。

マタイ 7：18〔良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこと
できない。〕〔つまりどんな場合にも人格が、あらゆる良い行為に先立ってあらかじめ善かつ義しくなければならぬのであり、善い行為がこれに従い、義しいよい人格から生じるのである。ルター第 23（キリスト者の自由）〕

④忙しさを断ち切るために宗教活動、授業科目を整理する。宗教活動、授業科目を整理する。 宗教活動への愛着のため教員の科目は 5－6 科目、キリスト教学 1・3 年各 1 科目 2 単位 2 キャンパス〔学部〕：忙しさから解放され研究や諸活動を充実させる。意志決定 方式：チーフに従う。4 年後見直し、メールの活用〔メーリングリストでの報告・提案 など〕、宗教部活動の迅速化、効率化、連携強化、役割分担など〔2005 野村、活動分析〕 時間と余裕：やるなら真剣、最高のものを行う。

主題講演「宗教活動の再構築をめざして」

工学部電子工学科 星宮 務

1. はじめに

ご紹介にあずかりました工学部の星宮務でございます。私自身は、キリスト教の専門的な教育を受けた事のないものでございますし、信仰の弱いものですから、全くこの場で発言すべき資格のあるものではないと思っておりますが、ご指名ですので出席させていただきました。

このタイトルと直接かかわることかどうかは自信がありませんが、日頃自分が考えている「大学教員の職業倫理を通しての宗教との関わり」の側面から、若干述べさせていただきますこととお許しいただきたいと思います。

2. 大学に勤める教員の立場

大学に教員として勤める立場では、「研究」と「教育」と「大学運営」の3つが関わって参ります。特に理工系の場合には、理論・実験の進歩の度合いが全体としては早いと思われまます。勿論文系の科学でもエポック・メイキングな発見があって大いに学問が進展する事があるとは思いますが、理系の研究の進展速度は極めて早いです。

最近榎ヶ岡高校で講演する機会があって、科学史を紐解いて分かったことですが、20世紀は「前半が物理学の時代、後半が生物学の時代」といわれるほどの大変革を受けた時代でした。

それに伴って、私どもが関わっている機械工学や電気電子工学なども、測定の現代化が著しく、研究面ではあっという間に研究のネタがなくなってしまうほどです。特に特許などの優先権（priority）を争う局面では、民法上の訴訟に近いような論争によって知的財産権を獲得する場合も多いです。

また教育面でも、勉強を怠ってうかうかしていると、もはや陳腐化してしまった前時代の技術を講義するような羽目に陥ってしまいます。

勿論、いくら進歩が早くても、変わらないものがございます。物理法則は不変であるし、効率的な技術も根本は大きくは変わりません。しかしそうはいつでも、研究・教育の両面にわたって、不断の絶え間ない自己研鑽の努力が教員側に要求されている事は否定できない事実だ、と思います。

一か所だけ聖書の箇所をお読みいたします。ルカによる福音書 11 章 62 節です。

「あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」

この箇所を読むたびに私は自分自身を、ここに書かれている律法学者と比べてしまいます。今は大学教員も公募の時代です。たまたま私は大学教員のポストを得ることが出来て勤めておりますが、今ここで公募を実施したら、本来は私よりもはるかに本学の教育・研究・運営に適した優れた方がポストにつくべきなのを妨げている存在になっているだけではないか、と。

本学に職を得て以来、私はルカ福音書の言葉を自分に問いかけざるを得ないと感じています。

3. 大学における求心力の中心について

私は、かつて大学の教職員組合の委員長をした事があり、様々な方々の意見を聞く機会に恵まれました。その中で多かった意見は

「東北学院大学には 2 つの中心がある。大学を良くしようとする中心とキリスト教だ」という意見です。これを聞いた時には、非常に不自然に感じました。本来ならば、キリスト教大学として目指すところと、大学のレベルアップを図ることが一致するはずでありますのに。

ただ、皆さんが言わんとしている事はわかりました。大学のレベルをストレートに上げようとする方向（この事が、たとえば研究にだけ偏った意見であったりする場合もあります）に対し、反対する意見の当時の方々（事務系にも教員にもいました）がキリスト教を持ち出して来てブレーキをかけようとする動きがあった事を意味していたのだと思います。

しかし本来あるべき姿である「神の栄光を表す器」としての姿の追及は、必然的に大学のレベルアップにつながるはずであり、求める中心はやがて 1 つに収束するはずだと思います。

4. おわりに

それでは自分はどうすべきか、という問題が残っています。弱い一個人として自分にできる事は、まず第一に大学教員として教育・研究と大学運営という自らのなすべき仕事を一所懸命に行う事、悩んでいる学生の勉強や生活の悩みを一人の隣人として親身になって聞こうと日々努力する事だけです。それによって職場の同僚からは教育・研究と大学運営に関して信用を勝ちえ、学生諸君からは尊敬はされなくとも信頼される教員たりえること、を当面の目標としています。自分に与えられたキリスト教活動として、新入学生のオリエ

ンテーションキャンプの礼拝をはじめとする宗教行事がありますが、キリスト教の専門の先生方のようにギリシャ語などの聖書の原典に基づいたお話をする能力はございません。聖書の略解に自分の専門分野や個人的な体験などを盛り込んだ、側面からの「ゲリラ的な」奨励になるのはやむをえない事ではないか、とあきらめております。

私個人の目標として述べた事が、あるいは全体としてはキリスト教大学の宗教活動の活性化につながるのかも知れません。しかし自分の力不足のため、グローバルな視点からの発言は全く出来ませんでした。非常にプライベートな発題になった事をお詫びして、結びといたします。

キリスト者教員研修会報告【発題資料3】

主題講演「宗教活動の再構築をめざして」

大学宗教主任 永井義之

1. 資料 キリスト者等推薦学生名簿

2. 聖書研究会出席学生
カトリック高校からの推薦学生
福音派教会
未信者

3. いくつかの問題点
A君のつぶやき
信仰と学問

4. 私たちとしてどこまで彼らと関わっていけるか。
送り出す側
受け入れる側

5. 聖書研究会のあり方
従来の聖研が持っている利点

6. 宗教活動の再構築をめざして

2010年度
第36回 サマーカレッジ

第36回サマー・カレッジプログラム

主題：「異文化とコミュニケーション」

場所：秋保ホテルクレセント

時間	8月11日(水)	8月12日(木)	8月13日(金)	時間	
7	集合「送迎バス」 (集合・受付11時30分) 泉出発 (集合・受付12時30分) 土樋出発 ホテルクレセント到着 開会礼拝(長谷部) オリエンテーション プログラム 「講演Ⅰ」 「国際交流について語ろう」 出村みや子大学宗教主任 夕食 フレンドシップ (親睦のひととき)			7	
8		朝食		8	
9			朝の祈り(8:30)	チェックアウト	9
10			「講演Ⅱ」 「2人の卒業生を通して見た 異文化とのコミュニケーション」 岩本 由輝先生 仁昌寺正一先生	「講演Ⅲ」 「国際交流を通して得られた 一つのビジョン」 野村信大学宗教主任	10
11					11
12			「国際交流の歴史」 日野哲総務部長	閉会礼拝 永井義之大学宗教主任	11:30
13			昼食 (午前の講演の関係で昼食を1時間遅く)	昼食	12
14				解散「送迎バス」	13
15			「自然とともに」 (秋保散策)		14
16					15
17					16
18					17
19					18
20		「演奏会」 マーチ先生 (& モーリーさん) オルガニスト渡辺真理先生		19	
21				20	
				21	

※プログラムが一部変更になることもあります。

第 36 回 サマー・カレッジプログラム 講演Ⅱ

「2 人の卒業生を通して見た異文化とのコミュニケーション」

本学経済学部教授 岩本 由輝

本学経済学部教授 仁昌寺正一

ここでとりあげるの「2 人の卒業生」は杉山元治郎と鈴木義男です。明治末期に東北学院でキリスト教教育を受けたこの 2 人は、やがて日本の近代の民主主義発達史にその名を刻むほど大きな活躍をしました。換言すれば、2 人のそのような活躍は、東北学院でキリスト教という異文化に接し、その人道主義や博愛精神などに強く影響を受けたことによって、可能になったのです。本日は、この 2 人について、私たちがこれまで調査したことを中心にお話しさせていただこうと思っております。

私たちが杉山元治郎と鈴木義男の調査を開始したのは今から 8 年前の 2002（平成 14）年でした。4 年後が東北学院創立 120 周年にあたることから、その記念事業の一環として、日本の近代・現代史に大きな大きな足跡を残したこの 2 人の O B を取り上げてみようということになったからでした。このため「大正デモクラシーと東北学院」調査委員会の下でかなり広範囲に及ぶ調査が行われ、やがて『大正デモクラシーと東北学院—杉山元治郎と鈴木義男—』（2006 年 10 月、学校法人東北学院）という図録にまとめられました。この 2 人の経歴は次の通りです。

杉山元治郎は、1885（明治 18 年）11 月 18 日、大阪府日根郡下瓦屋村（現泉佐野市）で、父・政七、母・具満くまの長男として生まれました。小学校卒業後、1900（明治 33）年に大阪府立農学校農科に給費生として入学し、同校在学時に大阪南教会で受洗、クリスチャンとなり、卒業後、和歌山県農会に就職しました。和歌山教会に通ううち、『平民新聞』の読者グループに入り、『紅旗』という同人誌の編集発行人となり、日露戦争に対する非戦論の論文を掲載したことが問題となって和歌山県農会を退職し、仙台に来まして、1906（明治 39）年 4 月、20 歳で東北学院神学部別科に入学しました。1909（明治 42）年 3 月には、東北学院を卒業、以後 1920（大正 9）年まで、牧師として活動することになります。この間、独立自給伝道を行いつつ、小作農の生活向上のために尽力しました。その後、日本農民組合初代組合長就任（1922〔大正 11〕年）、労働農民党中央執行委員長就任（1926〔大正 15〕年）、全国農民組合中央執行委員長就任（1928〔昭和 3〕年）と続き、農民運動のリーダーとして活躍しました。1932（昭和 7）年には衆議院議員に当選、以後当選 5 回、1955（昭和 30）年には

衆議院副議長に就任しました。東北学院の役職としては、1941（昭和16）年に理事となり、1944（昭和19）年に第5代理事長に就任しました。その後、1948（昭和23）年に公職追放により同職を辞したものの、1963（昭和38）年には、第6代理事長鈴木義男の急逝により、改めて第7代理事長に就任しましたが、翌年10月に亡くなりました。

鈴木義男は、1894（明治27）年1月17日、福島県西白河郡白河町（現白河市）に生まれました。父が熱心なクリスチャンであり、また日本メソジスト仙台教会（現仙台五橋教会）の伝道師であった縁もあり、1907（明治40）年、13歳で東北学院普通科（中学・5年制）に入学しました。18歳で同校を卒業後、第二高等学校、東京帝国大学法学部に学び、1924（大正13）年から東北帝国大学法文学部教授に就任しています。1930（昭和5）年には同職を辞して弁護士になっていますが、このなかで、弁護士といえども躊躇したといわれる治安維持法違反事件被疑者の弁護を積極的に引き受けています。また、帝人事件の弁護人として、人権保護のために活躍したこともよく知られています。第2次世界大戦後には政治の世界に身を投じ、1946（昭和21）年の総選挙で衆議院議員に福島2区から立候補して当選、以後1960（昭和35）年まで7回の当選を果たしています。この間、1947年6月に片山哲内閣の司法大臣に、また1948年3月には芦田均内閣の法務総裁（国務大臣）に就任しています。母校東北学院との関係では、1947年7月に杉山元治郎の後を受けて第6代理事長に就任、以後1963年の長逝まで務めています。

さて、早いもので、上の図録の刊行から4年が経ってしまいました。この間、予想以上に大きな反響がありました。この図録は、刊行時に杉山元治郎と鈴木義男の遺族・親族、資料提供者、大学図書館等のごく限られた範囲への寄贈がなされただけでしたが、その後、人づてに広がっていき、多くの方から感想を綴った手紙をいただきました。その手紙は150通にも達し、北海道から沖縄までの広い範囲に及んでいます。

それらの手紙の一部を紹介すると、東北学院OBのある方は、「感動して書いています。杉山元治郎、鈴木義男の二人とも知りませんでした、すばらしい方々が東北学院の先駆者で卒業生として何も知らず、恥ずかしい思いです」と述べています。またある大学の教員は、「原資料も多数紹介されており、記念誌的あるいは顕彰的になることなく、緻密に描かれ、研究文献として質の高い書物となっており、思いがけずすぐれた文献が手に入り喜んでおります」と書いています。さらに杉山元治郎の研究者は、「農村問題において、とにかく賀川豊彦が出てきて、付け足のように杉山が登場するというパターンで語られることが多々ありますが、杉山の独自の思想と行動の検証が、キリスト教と農村社会事業との関係を解くうえで重要であると思われました」と記しています。

この2人が、生涯にわたって東北学院やシュネーダー院長から受けた教育に対して深く感

謝していたことも決して忘れてはならないことです。例えば、杉山は、1955（昭和30）年、創立70年を迎えた学校法人東北学院の記念行事において、

私一人を振り返り見れば入学当時は一介の粗暴な野人に過ぎず、或いは又此世的なものを追い求める浅薄な功利主義者に過ぎませんでした。此の私が少しでも人間らしくなり、人の為に奉仕せんとする考えの持主になったことは東北学院の教育とシュネーダー博士の人格感化の賜物であります。私の野心は浄化され、虐げられる農民を解放するために日本農民組合を創立する事も亦政治的平等を確立するために労働農民党を創立した事も皆東北学院精神の発露に過ぎなかったのであります。

と回顧しています。

また、鈴木は、シュネーダー没後1年後の1939（昭和14）年12月に行われた追悼講演において、

今から三十四年前の四月或る日、福島県の田舎から出て来た十三才の少年、私は始めて東北学院旧校舎の講堂でシュネーダー先生の温容に接したのであります。私が東北学院を慕って幾多の県公立中学校があるのにそれに飛び超えて遙々笈を仙台に負いましたのは、一つは亡き父の命であったのでありますが、茲に東北の聖者ありとの噂に魅せられた為めでもあったのであります。果せる哉、私の少年の脳裏に描いた夢はその後永く破られることはなかったのであります。その時先生は一同を集めて東北学院教育の使命を説示されて将来国家有用の人物になる為め一生懸命に勉強せよと云われたのであります。その時私の受けた印象は西洋人といふよりは上品な日本人と云ふ印象であったのであります。それから五年の間、私は直接間接に先生の御薫陶に浴したのでありますが、之が私の全生涯を決したものと申して差支がない。そして私は他の学校に入らずに我が東北学院に入った事を光榮として誇とするに至ったのであります。

と述べています。

このように、杉山も鈴木も、東北学院や院長シュネーダーに教育を受けたことに感謝し、東北学院の精神を心の糧としつつ世に大きく羽ばたいていったのでした。

私たちはこれからもこの2人の調査を続けていくつもりですが、例の図録をみて研究者の何人かから「杉山あるいは鈴木を知っていた。しかし、東北学院の出身者であるとは知らなかった」といわれたことはいささか衝撃であったということを記しておきます。

第 36 回 サマー・カレッジプログラム

「東北学院大学の国際交流の歴史」 ～異文化とのコミュニケーションの視点から～

総務部長 日野 哲

1. 主な出来事（1960年以降の概要）

※別紙「東北学院大学の国際交流に関する主な出来事（年表）」を参照

2. 本学学生の海外留学

(1)短期留学（夏期留学、語学研修）

特に、アメリカ研究「アーサイナス大学夏期留学」について

(2)長期留学（交換留学、認定留学）

特に、留学先大学との学事暦の違い、科目の読み替えによる単位認定について

3. 海外からの留学生の受け入れ

(1)協定校からの受け入れ

①長期留学（交換留学）

a. 日本研究秋期講座（9月～12月）

本学教員による「日本語」の講義と英語による特別講義を受講

b. 集中日本語講座（9月～翌年8月）

本学教員による日本語に関する科目を受講

c. 長期交換留学生の受け入れ（4月～1月）

日本語による通常の講義を受講（主に韓国・中国の学生）

特に、受け入れに際しての日本語能力と宿舍について

②短期留学（夏期留学）

a. 日本研究夏季講座（5月～6月）

特に、ホームステイ、国内旅行中の広島での出来事について

(2)私費外国人留学生の受け入れ

①人数と国籍

1993年 人数：10名（1年3名、4年1名、大学院4名、研究生2名）

国籍：中国6名、韓国2名、フィリピン2名

1998年 人数：26名（2年6名、3年6名、4年7名、大学院3名、研究生3名、
国費留学生1名）

国籍：中国12名、韓国9名、ガーナ2名、モンゴル1名、マレーシア1名、
オーストラリア1名）

2010年 人数：29名（1年5名、2年7名、3年4名、4年9名、大学院2名、
研究生2名）

※他に特別聴講学生8名（韓国とドイツの協定校より）

②さまざまな課題

a. 在留資格の取得

入国・日本語学校在籍時（就学ビザ）、入学・在学時（留学ビザ）、卒業後・就職時（各
種就労ビザ）

※在留資格の変更・更新、再入国許可、取消し

b. 外国人留学生特別入学試験

募集定員：20名（文4、経済3、経営3、法2、工4、教4）

出願資格：日本留学試験の受験（6月または11月）が必須

※日本語の得点が受験生の平均点以上

選抜方法：書類審査（特に経費支弁の書類）、英語、日本語小論文、面接（工学部は日
本語による小テスト）

c. 授業料の減免と留学生奨学金の獲得

※資格外活動許可（平成22年7月より改正）

1週14時間以内又は1日4時間以内

↓

1週28時間以内（長期休暇中は1日8時間以内）

d. 講義の受講と評価（単位認定）

e. 生活上の課題（アパート借用時の保証人、生活費の支弁など）

4. 本学の国際交流の到達目標

「政府の『留学生 30 万人計画』への対応策を検討し、本学で平成 13（2001）年に設定された『協定校 30 校』及び『留学生数は全学生数の 1 %』の目標を早期に達成する。」（平成 21 年度『点検・評価報告書』より）

東北学院大学の国際交流に関する主な出来事（年表）

西暦	元号	月日	主な出来事	参考
1960	(昭和 35)	6 月 4 日	小田忠夫学長、アーサイナス大学より名誉法学博士の学位を授与される	
1971	(昭和 46)	7 月 1 日	総務部に国際交流担当職員を配置	
1972	(昭和 47)	5 月 25 日	「教授・学生交流委員会」を開催、12 月 5 日「国際交流委員会」と改称	日野就職
1973	(昭和 48)	7 月 1 日	第 1 回アーサイナス大学夏期留学（学生 13 名、付添教員 2 名）	
1979	(昭和 54)	12 月 13 日	「日本研究講座準備委員会」を開催	
1981	(昭和 56)	4 月 1 日 6 月 1 日 6 月 1 日 8 月 1 日	「国際交流委員会規程」を制定 国際交流担当職員を法人本部室へ異動 「日本研究講座委員会」を新設 出村彰氏（日本研究講座委員）、渡米の折、アーサイナス大学と フランクリン&マーシャル大学を訪問し、交流計画について意見を交換	
1982	(昭和 57)	4 月 1 日 5 月 29 日 6 月 25 日 7 月 27 日	「日本研究講座委員会規程」「アメリカ研究講座委員会規程」を制定 第 1 回日本研究夏季講座（アーサイナス大学より学生 9 名、付添教員 2 名） アーサイナス大学と「国際教育交流協定」を締結 第 10 回アメリカ研究アーサイナス大学夏期留学（学生 40 名、付添教職員 3 名）	日野参加
1983	(昭和 58)	11 月 6 日	情野鉄雄学長、アーサイナス大学より名誉人文学博士の学位を授与される	
1985	(昭和 60)	1 月 1 日 5 月 19 日	アーサイナス大学へ第 1 回交換教授を派遣（川嶋 順教授） 児玉省三理事長、アーサイナス大学より名誉人文学博士の学位を授与される	
1986	(昭和 61)	5 月 15 日	東北学院創立 100 周年記念式当日、フランクリン&マーシャル大学と 「国際教育交流協定」を締結	
1987	(昭和 62)	1 月 17 日 4 月 1 日 7 月 27 日	児玉理事長・情野学長、フランクリン&マーシャル大学創立 200 周年記念式にて 名誉人文学博士の学位を授与される アーサイナス大学より第 1 回交換教授を受入（S.Ross ダウティ教授夫妻） 第 15 回アメリカ研究アーサイナス大学夏期留学（学生 39 名、付添教職員 3 名）	日野渡米
1988	(昭和 63)	6 月 1 日	法人本部室国際交流係を法人本部室の下に「国際交流センター」として独立	
1990	(平成 2)	4 月 1 日 4 月 1 日 4 月 1 日	「国際交流委員会規程」「日本研究講座委員会規程」「アメリカ研究講座 委員会規程」を改正施行 「学生の海外留学に関する規程」「海外留学生奨学金規程」等を制定 国際交流センターを大学総務部国際交流センター事務室に改組	日野異動
1991	(平成 3)	4 月 1 日 4 月 1 日 8 月 1 日 9 月 1 日	「国際学術交流委員会規程」「交換教育職員に関する規程」等を制定 「外国人留学生受入れに関する規程」を制定（「外国人留学生入学に関する 取扱い内規」は廃止） 第 1 回交換留学生を派遣（アーサイナス（U）大学へ 3 名、F & M 大学へ 2 名） 第 1 回交換留学生を受入（第 1 回日本研究秋期講座） （U 大学より 6 名、F & M 大学より 3 名）	

1992	(平成 4)	4月1日 4月1日 4月1日	「学生海外留学委員会規程」を制定（「アメリカ研究講座委員会規程」は廃止） 「外国人留学生委員会規程」を制定（「日本研究講座委員会規程」は廃止） 「私費外国人留学生授業料減免規程」を制定 (学部1年生30%、学部2～4年生50%、大学院生70%の減免)	
1993	(平成 5)	4月1日 8月20日	私費外国人留学生特別入試制度により、学部生3名が初めて入学 同窓会創立90周年記念アメリカ旅行で、U大学とF&M大学を訪問	日野参加
1994	(平成 6)	9月日	初めての認定留学生を派遣(宮城県派遣ドイツ・ザールランド大学へ1名)	
1996	(平成 8)	4月1日	「英文大学案内」(第1号)を発行	
1997	(平成 9)	4月1日	ドイツ・ヴィースバーデン大学と「学生交換に関する協定」を締結	
1998	(平成 10)	5月25日 11月20日	韓国・平澤(ピョンテック)大学校と「国際教育・研究交流協定」を締結 中国・南開大学と「国際学術交流並びに教育交流協定」を締結	
2000	(平成 12)	2月2日 4月18日	イギリス・アルスター大学と「学術交流および教育協力に関する国際協定 ならびに学生交換に関する協定」を締結 イギリス・ダラム大学と「学術交流および教育協力に関する国際協定 ならびに学生交換に関する協定」を締結	
2002	(平成 14)	6月1日		日野異動
2003	(平成 15)	10月10日	韓国・大仏(ダブル)大学校と「学術交流および教育交流に関する国際協定」 を締結	
2004	(平成 16)	3月24日 3月30日 6月17日	オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学と国際協定を締結 カナダ・ビクトリア大学と国際協定を締結 フランス・サヴォア大学と国際協定を締結	
2006	(平成 18)	11月14日	ドイツ・トリア大学と国際協定を締結	
2008	(平成 20)	5月16日 7月21日	中国・山東大学威海分校と国際協定を締結 タイ・泰日工業大学と国際協定を締結	
2009	(平成 21)		ドイツ・ヴィースバーデン大学が「ラインマイン大学」に名称変更	

アメリカ研究「アーサイナス大学夏期留学」一覧表

回	年	学生数	期 間	付 添 教 職 員
1	1973	13	7.1 ～ 8.28	川嶋 順、京極伸一
2	1974	10	7.1 ～ 8.27	清水浩三、木村洋一郎
3	1975	15	6.30 ～ 8.24	清水浩三、畑中孝實
4	1976	12	6.28 ～ 8.28	畑中孝實、鈴木 勉
5	1977	13	8.2 ～ 9.24	川嶋 順、遠藤裕一
6	1978	23	7.29 ～ 9.24	志子田光雄、遠藤裕一
7	1979	37	7.29 ～ 9.22	久松 豊、柴田良孝、鈴木 勉
8	1980	31	7.30 ～ 9.25	大江善男、柴田良孝、村山真理子
9	1981	37	7.26 ～ 9.18	川嶋 順、中村雄志、小原武久
10	1982	40	7.27 ～ 9.13	平河内健治、平間孝雄、日野 哲
11	1983	40	7.26 ～ 9.13	須田 稔、斎藤信幸、清水道生
12	1984	22	7.27 ～ 9.13	小柴徹修、岩谷 信、佐藤光男
13	1985	40	7.30 ～ 9.17	富士 裕、佐々木勝彦、斎藤信二
14	1986	40	7.29 ～ 9.10	山本新一、遠竹 護、二階堂哲
15	1987	39	7.27 ～ 9.9	須田 稔、山崎和郎、佐藤勇三
16	1988	40	7.28 ～ 9.9	高橋克己、秋葉 勉、鈴木 勉

日本研究夏季講座一覧表

回	年	学生数	期 間	付 添 教 職 員
1	1982	UC 9	5.29 ～ 7.1	ユージーン・ミラー夫妻
2	1983	UC 3 F&M 5	5.27 ～ 6.30	ヒュー・クラーク ノーマン・テイラー
3	1984	F&M 5	5.25 ～ 6.28	ノーマン・テイラー
4	1985	UC 7 F&M 4	5.24 ～ 6.27	ロス・ダウティ夫妻 キャロル・オースター
5	1986	UC 10 F&M 3	5.22 ～ 6.26	ヒュー・クラーク ロバート・ミッキー
6	1987	UC 7 F&M 7	5.21 ～ 6.25	エゴン・ボルグマン ゴードン・ウィクストローム夫妻
7	1988	UC 9 F&M 8	5.19 ～ 6.23	ルース・カネギー チャールズ・ボルズインガー

UC：アーサイナス大学

F&M：フランクリン・アンド・マーシャル大学

第 36 回 サマー・カレッジプログラム 講演Ⅱ

「国際交流を通して得られた一つのビジョン」

野村 信

〔序〕

アメリカ 1ヶ月(25才)、3年、ディレクター、3回
スイス・ジュネーブ 1回、8ヵ月
パリ 3回
ドイツ 2回
オランダ 8回、1年
韓国 2回
フィリピン 1回

〈外国へ行く上での留意点〉

- 1、教会やクリスチャンたちとの交流・援助が重要
- 2、日記や旅行日誌をつける。
- 3、ガイドブックを読み、細心の注意を払い、安全最優先
- 4、出会った人々との交流を続けること
- 5、通貨・換金は大事

〈国際交流を通して得た利点〉

- 1、相互理解：人は、みな己の生活様式・文化を持つ。相手を尊敬すること。
- 2、自分の人種差別や偏見を改善できること。
- 3、多種多様：「これが当たり前だ」という常識や理解は他国では異なっている。
- 4、人を愛すること：誰もみな神様に創られ、命を与えられた存在であること。

〔1〕我々はどこを見ているのか？

- 1、人々との交流の輪を広げる(国際交流) …… 視野を広く、遍く(横へ)
- 2、どの人も神様から愛されているし、皆そのことに気付きたい。(上へ)

〔2〕「下へ」向かう視線とは何か？・・・（これが今回のテーマ：一つの vision）

- 1、我々にとって「下」とは「大地」である。そこで、「下へ向かう」ということで、「大地を見よ」、「大自然を見よ」を主張するならば、「自然への愛」や「共生」、「環境保護」を論じることになる。これらは大事なテーマであるが、今回の議論では副次的なものに位置する。今回、明らかにしたいのは、可視的な自然世界と、地下を構成する地層の連続を見るのではなく、不可視的な大地(自然世界)とその奥を観るのであり、すなわち、「大地の深みを観る」ということを論じたい。そしてこれが、私自身の国際交流によって得たビジョンであり、どこにいても「安らかに」、「満足して」生きる術なのである。
- 2、大地が最も身近で、最大の「深み」である。そこでまず、「大地の深み」とは何かを考えたい。しかし、これは哲学的・思想的・霊的な取り組みである。一言で説明(定義)し難い。
 - 1) 大地(ないしは土)とは、人間が生まれて、養われ、帰っていく世界である。聖書はそれを言う。仏教もヒンズー教も、「生物」の教科書でもそう。
 - 2) 旧約聖書では、最奥に黄泉の国(シヨエール)があると考えたが(神道もそう)、新約聖書では、天国と地獄の対比はあるが、大地とその奥に「地獄」があるとは語っていない。
 - 3) キリストの降下(卑下)は、「下へ」であり、「陰府に」(使徒信条)まで下って地獄の縄目、扉の鎖を壊すという働きであった。つまり人間の恐れる二元的世界観を壊したのである。
 - 4) 神が創られ、保持され、豊かに養ってくださっている世界(創世記1章)。総じて、霊的な世界であり、「霊性」に満ちた世界である。
- 3、これを別の表現で、「大地性 Erderlichkeit」(新語)と呼ぶ。
 - 1) 現代社会の精神的な悩み、すなわち「孤独」、「不安」、「焦り」、「怠惰」、「虚無」、「絶望」という意識は、ほとんどが「大地性」の喪失から来る。(なぜなら大地にこれらが無いから)
 - 2) 人間は「大地性」を回復し、「大地の深み」を意識した生活をすべきである。悪魔は、人間が存在の深みへ向かうことを恐れる。
 - 3) 諸宗教における「大地性」を見ると次のようである。ヒンズー教(◎)、仏教(◎)、儒教(○)、道教(◎)、神道(●)、ユダヤ教(○)、キリスト教のカトリック(○)、東方正教会(◎)、プロテスタント(×)、イスラム教(×) (なお、大地性が希薄なプロテスタントとイスラムは地上で争ってばかりいる。)

〔3〕「存在の深み」・・・（ないしは「可視物を深く観る」）

さて、「大地の深みへ」とは、単に足の下を言うだけではなく、「存在の深み」と総称すべきである。我々が目にするあらゆる可視的事物には、その「存在意義(神秘)」、すなわち「存在の深み」をもつ。そこで「存在の深み」はどのように地上に存在するものから理解されるか、一瞥しておこう。

〈対象〉	〈存在の深み〉		〈存在の軽視〉
「人間」	個性、人格、尊厳	/	没個性化、奴隷化、ロボット化
「芸術」	感動、喜び、感謝	/	大量生産、使い捨て、貨幣換算
「文章」	原意、原世界、真心	/	嘘、惑わし、でたらめ
「聖書」	神の声、精霊の躍動	/	切り刻み、科学的処理・解釈
「聖餐」	主の霊的な体・血	/	飲食物化、呪術、無視
「大地」	神の創造、霊性、一途	/	孤独、不安、迷い、虚無、呪い

〔結論〕

- 1、「下へ向かう視線」、すなわち「存在の深み」において、最も身近で大きい存在は、「大地」である。「大地(自然世界)」には悪魔がない。悪魔は人間の中、人間社会の中、さらに「空中にいて」(エフェソ2:2)、人間を支配する。そこで、「大地へ」、それも「存在の深み」を意識する、ないしは大切に人は、「悪」から遠ざかり、むしろ、存在している物を「深く観る(暖かい目で、畏敬をもって)観る」ので、「平和に生きる人々」であり、「柔和な人々」である。(「柔和な人は、地を受け継ぐ」マタイ5:5)
- 2、プロテスタント(もちろん東北学院も含めた)人々は、きわめて「大地性」に乏しい。それは、プロテスタントの信仰と教えが知的・精神的な領域を大いに強調し、さらに科学・技術、経済、産業を発達させるという物質的領域に大いに貢献したが、「存在の深み」、「命の根源」、「霊的な豊かさ」という不可視的・霊的・神秘的な領域を疎かにしたからである。このことは、「生命の根源」ともいべき領域の欠落、ないしは軽視であり、その結果、競い、争う世界を助長し、他方不安と孤立、敗北、虚無を増大させた。悪魔は大喜びをしている。(mind, body & spirit 心、体、魂)
- 3、最後であるが、最初に語るべきことでもあったが、キリスト教は三位一体を保持する。「父なる神は世界を創り、命を付与して保持し、子なるキリストは人間と世界の贖罪と回復を完成し、聖霊なる神は自由に強く弱く人間たちに働きかけてくださる」という教理である。プロテスタントはとにかく「キリストの十字架と復活」を語ることが現代社会においても最も効果的であると主張する。それは確かである。特に危機

的、混沌とした時代には最も有効であるが、社会が安定した文化が成熟していく時代には、神の豊かな働きをも強調して宣教にあたらなければならない。

以上のような、今まで忘れていた、欠落させてきた大きな領域を我々は再評価し、回復することが求められている。そしてこれに分かるようになると、私たちは、どこの国にいても、どんな環境にあっても、そのところで人々と平和で、落ち着いた（地に着いた）生活を進めることが出来るだろう。

2010 年度（平成 22）年度

東北学院大学宗教活動報告

2010（平成22）年度東北学院大学宗教活動報告

◇教員組織

宗教部長	佐々木哲夫
書記	永井義之
土樋 担当	佐々木勝彦、マーチー、D.N、佐藤司郎
泉 担当	永井義之、野村信
多賀城担当	北博、出村みや子、村上みか
大学オルガニスト	今井奈緒子
キリスト教文化研究所長	佐々木勝彦
キリスト教学科長	原口尚彰

◇大学礼拝

月～土曜日	10時25分～10時45分（土樋朝、泉、多賀城）
水曜日	19時35分～19時55分（土樋夜）
月曜日	19時30分～20時00分（泉女子寄宿舍）
火曜日	19時30分～20時00分（泉、旭ヶ岡寄宿舍）

年間総出席者数

	2010年度			2009年度			2008年度		
	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋・朝	15,540	180	86	5,400	153	35	10,718	156	69
泉	63,104	180	351	45,755	154	297	41,359	157	263
多賀城	24,007	182	132	39,723	160	248	35,769	162	221
土樋・夜	2,091	32	65	1,301	26	50	3,594	28	128
総計	104,742	574	182	92,179	493	187	91,440	503	182

〔備考〕・春季・秋季特別伝道礼拝、大学クリスマス礼拝を含む。

・平均値の小数点は四捨五入。

大学礼拝総回数 659回〔3キャンパス（573）・寄宿舍（86）〕

外部（牧師）	333回
学内（理事長、大学長、キリスト者教員など）	67回
（宗教部関係者）	270回
〔内訳〕 宗教部長	30回
永井義之大学宗教主任	25回
北博大学宗教主任	27回
出村みや子大学宗教主任	26回

村上みか大学宗教主任	25回
佐々木勝彦大学宗教主任	22回
野村信大学宗教主任	27回
佐藤司郎大学宗教主任	24回
原口尚彰キリスト教学科長	24回
マーチー, D.N. キリスト教学科教員	25回 (英語礼拝)
今井奈緒子大学オルガニスト	8回
聖歌隊	9回

◇春季宗教教育強調週間 特別伝道礼拝

日 時 2010年5月12日(水) 10時25分～11時20分 泉 (参加者 1,223名)
13日(木) 10時25分～11時20分 土樋朝 (参加者 467名)
説教者 倉橋康夫 牧師 (日本基督教団富士見町教会)
聖書箇所 新約聖書 エフェソの信徒への手紙 第5章 15節～17節
説教題 「時を用いる」

日 時 2010年5月12日(水) 10時25分～11時20分 多賀城 (参加者 402名)
12日(水) 19時35分～20時30分 土樋夜 (参加者 140名)
説教者 小堀康彦 牧師 (日本基督教団富山鹿島町教会)
聖書箇所 新約聖書 ルカによる福音書 第19章 1節～10節
説教題 「あなたは変われます」

◇秋季宗教教育強調週間 特別伝道礼拝

日 時 2010年10月5日(火) 10時25分～11時20分 泉 (参加者 1,200名)
6日(水) 10時25分～11時20分 土樋朝 (参加者 288名)
説教者 棟居勇氏 (好善社理事長)
聖書箇所 新約聖書 ルカによる福音書 第10章 25節～37節
説教題 「隣人として生きる」

日 時 2010年10月6日(水) 10時25分～11時20分 多賀城 (参加者 428名)
10月6日(水) 19時35分～20時30分 土樋夜 (参加者 156名)
説教者 三吉信彦 牧師 (日本基督教団千葉教会)
聖書箇所 旧約聖書 出エジプト記 第3章 1節～10節
説教題 「道をそれて」

◇第22回泉キャンパスクリスマス

日 時 2010年12月3日(金) 18時30分
場 所 泉キャンパス礼拝堂

説教者 田尻真介牧師（日本基督教団仙台松陵教会）

説教題 「地には平和」

内 容 第1部「礼拝」、第2部「クリスマスコンサート（演奏等）」（参加人数 312名）

◇大学クリスマス

日時・場所 2010年12月16日（木）10時25分 泉キャンパス礼拝堂（参加者1,086名）

〃 16時30分 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂（参加者 115名）

2010年12月17日（金）10時25分 多賀城キャンパス礼拝堂（参加者 315名）

説教者 中野実氏（東京神学大学教授）

説教題 「おめでとう、マリア」（3キャンパス）

合 唱 ヘンデル「メサイア」より抜粋

指 揮 岡崎光治（作曲家）

オルガン 今井奈緒子 教養学部教授（大学オルガニスト）

独 唱 者 （バス）熊木晟二（東奥義塾高等学校教諭）

（ソプラノ）鈴木美紀子（声楽家）

合 唱 団 グリークラブ、宗教部聖歌隊

◇第15回スプリング・カレッジ

日 時 2010年4月17日（土）14時30分～19時00分

場 所 泉キャンパス礼拝堂（1階）小礼拝堂・1号館（3階）第1会議室

内 容 キリスト者等推薦入学生へのガイダンス

開会礼拝 原口尚彰キリスト教学科長

挨拶 宗教部長

1) 年間宗教行事への参加について

2) 大学礼拝への出席について

3) 聖書研究会か聖歌隊のいずれかへの加入について

4) 出席教会の確定と報告について

5) その他（統一教会への注意など）

参加人数 学生33人、教職員10人（佐々木宗教部長、永井義之、原口尚彰、北博、

野村信、マーチー、D.N.、村上みか、出村みや子、羽賀新一、坂本由香）

◇第36回サマー・カレッジ

(I)日 時 2010年8月11日（水）～13日（金）

場 所 秋保リゾートホテルクレセント

主 題 「異文化とのコミュニケーションー国際交流を考えるー」

講 師 経済学部教授 岩本由輝先生

経済学部教授 仁昌寺正一先生
総務部長 日野哲
大学宗教主任 野村 信先生
大学宗教主任 出村みや子先生
参加人数 学生 20 名、教職員 11 名(佐々木宗教部長、永井義之、野村信、北博、
出村みや子、マーチー、D.N.、羽賀新一、熊谷美奈子、日野哲、
岩本由輝、仁昌寺正一)

◇第 56 回教職員修養会

日 時 2010 年 8 月 31 日 (火) ～ 9 月 1 日 (水)
場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル
主 題 「聖書に聴く」
講 演 題 「信仰と仕事」
講 師 北城恪太郎氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社 最高顧問)
講 演 題 「東北学院の歴史を訪ねて」
講 師 鶴本勝夫氏 (本学名誉教授)
参加人数 教員 61 名、職員 61 名

◇キリスト者等推薦入学生との懇談会

日 時 2010 年 7 月 5 日 (月) 泉 参加人数 学生 38 名、教職員 8 名
2010 年 12 月 13 日 (月) 泉 参加人数 学生 32 名、教職員 7 名

◇礼拝奉仕者懇談会 (事務職員)

土 樋キャンパス (昼・夜) 2010 年 6 月 9 日 (水) 15 時 30 分～ 15 時 50 分
参加人数 柴田良孝総務担当副学長、出村みや子、他 17 名
多賀城キャンパス 2010 年 7 月 15 日 (木) 11 時 00 分～ 11 時 20 分
参加人数 星宮望大学長、宗教部長、他 15 名
泉 キャンパス 2010 年 6 月 9 日 (火) 11 時 00 分～ 11 時 20 分
参加人数 星宮望大学長、佐久間教養学部長、北博他 21 名

◇礼拝オルガニスト懇談会

日 時 2011 年 2 月 14 日 (月) 11 時 00 分～ 13 時 00 分
場 所 8 号館第一会議室
参加人数 28 名 (礼拝オルガニスト他)

◇礼拝司会者 (牧師・宣教師) 懇談会

日 時 2011 年 2 月 14 日 (月) 18 時 00 分～ 20 時 00 分

場 所 仙台国際ホテル
参加人数 44名(牧師・宣教師他)

◇宗教部会

開 催 日 2010年5月13日(木)、7月1日(木)、8月5日(木)、
9月30日(木)、11月4日(木)、12月2日(木)、
2011年1月14日(金)、2月14日(月)、計8回

◇大学宗教主任会

開 催 日 2010年5月13日(木)、7月1日(木)、8月5日(木)、
9月30日(木)、11月4日(木)、12月2日(木)、
2011年1月27日(木)、2月14日(月)、計8回

◇事務打合せ

日 時 2010年11月24日(水) 15時00分～17時00分
議 題 「2010年度補正予算及び2011年度予算案について」
場 所 泉キャンパス礼拝堂会議室
参 加 者 宗教部長、大学宗教主任、各キャンパス事務担当者

◇宗教部自己点検評価委員会

日 時 2010年9月30日(木) 14時30分～15時30分
主 題 「2010年度(前期)宗教活動について」
内 容 前期宗教活動の評価について
後期宗教活動予定について

日 時 2011年2月23日(水) 14時30分～
議 題 「2010(平成22)年度東北学院大学宗教活動報告について」
委 員 長 宗教部長
委 員 大学宗教主任

◇第33回青山学院大学・東北学院大学合同チャブレン会議

日 時 2010年7月17日(土) 13時～18日(日) 15時10分
場 所 東北学院大学土樋キャンパス
主 題 「建学の理念と大学のミニストーリー」
発 題 者 発題Ⅰ東方敬信(青山学院大学)、発題Ⅱ野村信(東北学院大学)
参加人数 13名(佐々木宗教部長、永井義之、野村信、北博、出村みや子、村上みか、
原口尚彰、佐藤司郎、佐々木勝彦、マーチー、D.N.、門脇邦知、羽賀新一、

熊谷美奈子)

◇宗教部研修会

日 時 2010年8月5日(木) 15時50分～19時30分
場 所 仙台国際ホテル
発 題 I「キリスト者等推薦制度について」、II「礼拝出席奨励の方法について」
発 題 者 発題I 野村信大学宗教主任 発題II 佐々木哲夫宗教部長
参加人数 16名

◇第15回キリスト者教員研修会

日 時 2011年1月14日(金)
場 所 仙台国際ホテル
主 題 「宗教活動の再構築をめざして」
発 題 者 佐藤邦廣先生、星宮務先生、永井義之大学宗教主任
参加人数 教育職員15名、事務職員4名

◇宗教委員会

日 時 2011年3月7日(月) 14:00～
場 所 土樋キャンパス 8号館 第1会議室

◇学長招待卒業生懇談会

日 時 2011年3月11日(金) 12:00～13:00
場 所 土樋キャンパス ゲルハード室
出 席 者 卒業生参加予定者 15名
学長、宗教部長、宗教事務課職員

◇聖書研究会

土樋キャンパス	北博	大学宗教主任	「旧約聖書を読む」、「新約聖書を読む」
	出村みや子	大学宗教主任	「ラテン語で聖書を読む」
	村上みか	大学宗教主任	カルヴァン「キリスト教綱要を読む」 「ルカによる福音書を読む」
	原口尚彰	初学教科長	「ローマの信徒への手紙を読む」
	佐々木勝彦	大学宗教主任	「詩編を読む」
	マーチー, D.N.	キリスト教学科	「English Bible Reading」
泉 キャンパス	佐々木哲夫	宗教部長	「聖句探訪」
	永井義之	大学宗教主任	「聖書を読む」
	野村 信	大学宗教主任	「ヨハネによる福音書を読む」

多賀城キャンパス 長島慎二 初任者教員 「教会暦に従った聖書日課を読む」
北 博 大学宗教主任 「教会暦に従った聖書日課を読む」

◇宗教部聖歌隊

『宗教音楽の夕べ』(7月24日)合唱、音楽礼拝、各クリスマス礼拝、各演奏会等への奉仕活動、
春・夏合宿実施

◇『チャペル・ニュース』

112号「新入生歓迎号」、113号「春季特別伝道礼拝特集号」
114号「サマー・カレッジ・秋季特別伝道礼拝特集号」、115号「クリスマス 特集号」

◇『2010キリスト教活動のハンドブック』

2010年4月1日発行

◇『礼拝説教集』

第15号(2011年3月末日発行)

◇『宗教活動報告書』

第11号(2010年7月31日発行)

◇その他

礼拝堂管理、図書資料受入、調査回答

◇キリスト教学校教育同盟関係

第80回教員夏期研究集会

日 時 2010年7月26日(月)～7月28日(水)

場 所 YMCA 東山荘(御殿場市)

主 題 「建学の精神に堅く立つーキリスト教学校の新たなチャレンジー」

会 長 小倉義明 氏(同盟常任理事・聖学院院長・女子聖学院中高前校長)

主題講演 「教師自ら そう生きるーキリスト教学校の生命と使命ー」

「歴史を創る担い手になろうーキリスト教学校の過去・現在・将来を見据えてー」

牧 師 吉岡康子 氏(青山学院女子短期大学宗教主任、日本初任者教団吉祥寺教会牧師)

出 席 者 中西弘文学部講師、篠崎剛経済学部講師、
竹林芳久工学部教授、武田敦志教養学部講師、
松村尚彦経済学部准教授(実行委員)

第 54 回事務職員夏期学校

日 時 2010 年 7 月 24 日 (土) ～ 27 日 (月)

場 所 YMCA 東山荘 (御殿場市)

主 題 「建学の精神を伝える事務職員

ーともに歩もう、これからのキリスト教学校教育同盟の百年ー」

校 長 嶋田順好 氏 (同盟理事、青山学院宗教部長・国際政治経済学部教授)

主題講演

牧 師 福島旭 氏 (関西学院中学部宗教主任)

特別講演 大西晴樹 氏 (明治学院大学学長・『同盟百年史』編纂委員長)

「職員プロジェクトチームによる建学理念の具体化ー明治学院 150 周年を前にー」

出 席 者 杉浦千裕財務課職員、佐藤菜津子教務課職員、清川由太入試課職員、

池上光情報システム課職員、伊藤百合学事課職員 (実行委員)

第 54 回全国大学部会研究集会

日 時 2010 年 9 月 9 日 (木) ～ 10 日 (金)

場 所 活水女子大学、長崎外国語大学

主 題 「イエスの生き方に倣うキリスト教学校ーこれからの同盟 100 年に向けてー」

講 演 「井上良雄と仲町貞子ー文学の封印と信仰」

講 師 田中俊廣 氏 (活水女子大学文学部教授、詩人)

出 席 者 佐々木哲夫 宗教部長

2010 年度キリスト教学校教育同盟

東北・北海道地区教育研究集会大学部会

日 時 2010 年 9 月 2 日 (木) ～ 3 日 (金)

場 所 シェラトンホテル札幌

主 題 「イエスの生き方に倣うキリスト教学校ーこれからの同盟の 100 年に向けてー」

講 師 金井新二先生 (北星学園大学学長)

講 演 「人間的社会の創造 - キリスト教学校の追求ー」

講 師 野本真也先生 (学校法人同志社理事長、キリスト教学校教育同盟理事長)

講 演 「これからの同盟 100 年に向けて」

出 席 者 平河内健治理事長、星宮望学院長、原田善教経済学部長、高木龍一郎法学部長、

遠藤銀朗工学部長、佐々木哲夫宗教部長

◇卒業記念礼拝 (3 月 11 日震災の為中止)

日 時 2011 年 3 月 24 日 (木)

説 教 者 佐々木哲夫 宗教部長

説 教 題 「地の塩、世の光」

東北学院大学教職員修養会 キリスト者教員研修会報告書

第 12 号 2011 年 8 月 31 日発行

発行責任者	宗 教 部 長	佐々木哲夫
編集責任者	宗 教 部 長	佐々木哲夫
出 版 社	株式会社アクトジャパン	
問い合わせ先	東北学院大学宗教事務課	
〒 980-8511	仙台市青葉区土樋 1 の 3 の 1	
	電話 022 - 264 - 6428	